

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	久保田 理

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学（新約聖書）	1	後期	必修	はい	91

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①1年生の必修科目であるため、受講動機はその点に集中している。</p> <p>②チャペルアワーと関連付けられた科目であるため、聖書を読むこと、讃美歌を歌うこと、祈禱をすることの実践を毎回の授業で行うことで、チャペルアワーへの出席意識を高める。</p> <p>③キリスト教に対する理解を持つことを目的に、キリスト教の礼拝で行われていることについて段階的に講義を行う。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
		達成された	達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均点は82点であり、再試対象は0名であった。</p> <p>全員が標準的レベルに達していた。</p> <p>知識理解という点では十分な理解が得られたと考えられる。</p> <p>実践の点では授業期間中に提出する「教会訪問レポート」を実施することで、キリスト教礼拝を体験することが授業内容の確認につながったと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
本科目は「総合人間科学」の「文化と宗教」であるが、本学の建学の精神である「感恩奉仕」を学ぶ科目であり、必修である。多くの学生がキリスト教に馴染みがないため、社会との接点を示しながら理解の助けとしたことから、内容的には妥当であると考えられる。

②DP、行動目標からみでの内容の妥当性
成績評価から達成度は十分と判断出来ることから、内容的には妥当であると考えられる。

③まとめ
以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価における平均値は問題がないと考えられる。
学習量の評価では、予復習時間時間の解答に「0回」が多かったこと、また自発的学習の解答に「していない」が多かったことから、授業の内容をチャペルアワーに明確に関連付けることが必要であると考ええる。
また、学生の意見でも「何をすれば良いかわからない」があったことから、この点は課題とすべきであると考ええる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

キリスト教主義学校としてキリスト教理解の入り口となるのが本科目の位置付けである。その意味では知識理解の形成では達成出来た。また、チャペルアワーの出席と合わせて、キリスト教礼拝の実際にもふれる機会があり、理論と実践の実施も出来ている。キリスト教の価値観を学ぶことは、新しい視点を得ることもつながり、判断の多様化を促すことにもなっている。
ただし、そのことを得たと実感することとは別になっている面もあり、本科目の課題として考えて行きたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	中原 智美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
初年次セミナーII	1	後期	必修	いいえ	90

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①初年次セミナーIIでは、初年次セミナーIで学修した基礎的知識・スタディスキルの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた。</p> <p>②初年次セミナーIで用いた課題発見やレポート作成計画書は引き続き活用し、グループ小冊子の構成を考えるためのワークシートについては、小冊子全体を効果的に捉えられるようにブラッシュアップした。</p> <p>③発表準備の時間を十分確保できるように、グループ小冊子作成までの流れを見直し、プレゼンテーションに充てる時間を1コマ増やした。</p> <p>④学習内容・進度にあわせて2コマ続きの講義も交えた進行を行い、発表・まとめを12月中に終了するようにした。そのため学生はポートフォリオ提出までの時間的余裕ができた。</p> <p>⑤プレゼンテーションの評価表について、2段階評価だった項目を3段階評価に見直し、具体的な指標となるように修正を行った。また、発表会における聴衆の姿勢についても評価項目に追加した。</p> <p>⑥発表時の評価は、担当者5名で実施した。複数の教員による評価で、より客観的な評価を行うようにした。学生・教員による評価をもとに、優秀賞を選出し発表の場を設けた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①履修した89名のうち、1名は出席日数不足のため不可であった。評価対象となる88名中、総合評価の得点平均値は77.9点、80名（90.9%）の学生が標準的レベル（70点以上）に達しており、理想的レベル（80点以上）に達した学生は42名47.7%であった。88名のうち1名は放棄となった。</p> <p>②DP観点別の得点率は、DP1-1（知識・理解）は72.3%、DP3-1（意欲関心）は78.7%、DP4-1（態度）は84.3%、DP5-1（技能表現）は77.2%であった。</p> <p>③学生の到達度自己評価の平均値は、4.2～3.3で、「コミュニケーション力や表現力を高めることができる」4.2が最も高く、次いで「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」4.1、「自分なりの目標を達成した」4.0であった。自由記述では、初年次セミナーを通してレポートの書き方の理解が深まった、少しずつ長いレポートが書けるようになったなどの記載があった。</p> <p>④授業の質評価の平均値は4.3～3.9で、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」4.3が最も高く、次いで、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」4.1、「評価基準は明らかであった」「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」は4.0で、例年と同様の傾向であった。</p> <p>⑤学生の学習量評価は、1回30分以上の予習・復習をした学生は91.7%・75%であった。課題以外の学習に取り組んだ学生は、30.5%という結果であった。自由記述では、興味のある論文を読んだ、発表に向けて練習したという記載があった。</p> <p>⑥図書館の図書・雑誌の利用は94.4%（昨年度70.8%）、学術データベース利用87.5%（昨年度86.5%）、インターネットホームページ利用95.8%（昨年度91.7%）と、積極的に学習をしていた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
本科目は初年次教育として基本的な学修スキルズを学び、それを専門基礎科目・専門科目で活用できることを目的とした科目で、初年次セミナーIで学んだ既習の知識をもとに、討論、発表を取り入れた構成となっている。1年次で身につけなければならない講義内容を含んでおり科目の位置づけとしての内容は妥当であると考えます。

②DP、行動目標からみでの内容的妥当性
評価点、観点別学習達成度（知識理解、意欲関心、態度、技能表現）、および学生の到達度自己評価などから、科目内容は妥当であると考えます。

③まとめ
以上より本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①学習達成度、到達度自己評価、授業の質評価の結果から、初年次セミナーIを基盤とした授業構成は、初年次セミナーIでの学びの確認と定着に繋がったものと考えられる。プレゼンテーション準備のための時間を1コマ増やしたことで、リハーサルを行う時間が確保できていたことから、次年度の計画にも活かしたい。

②本年度は図書館の利用状況が例年と比較して上昇していた。これは、オンラインから完全対面授業となったことも大きな一因であろうが、初年次セミナーIで改善したワークシートに「論拠となりうる事実・意見」という欄を設け、文献を調べることの必要性を意識づけたことが良い影響となった可能性がある。

③昨年の課題であった「問い」をたてる力の強化については、初年次セミナーIから継続的に改善策をとってきたが、「問い」をうまく見いだせない学生が多数いたことから、次年度も引き続き初年次セミナーIと連動し「問い」のたて方の理解を深められるように授業工夫を行う必要がある。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目は初年次教育として基本的なスタディスキルズを学び、それを専門基礎科目・専門科目で活用できることを目的とした科目である。ほとんどの学生が標準的レベルに達しており、上記に記載した評価点、観点別学習達成度（知識理解、意欲関心、態度）及び学生の到達度自己評価などからみて、この科目の目標は達成できたと考える。
今後は、「問い」をたてる力の強化が継続課題である。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生涯スポーツ	1	後期	選択	いいえ	76

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、からだを動かすことが中心のスポーツ実技の授業であり、学生が積極的に自律心をもって楽しく行えるように、指示は必要最小限にした。また、カロリーカウンターを用いることによって、授業中の歩数や消費カロリーを把握させ、からだを動かすことへの動機づけを図った。</p> <p>ラケットスポーツ（バドミントン、卓球、テニス）では、練習によって各種スポーツにおける技能を高めさせると同時に、ルールを理解させることによって、学生自身が積極的に試合ができるようにした。また、ダブルスのゲームでは毎回ペアを入れ替えるなど、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとることができるよう工夫した。試合後は反省点や次回に向けての改善点（課題）などを実習記録にまとめさせることによって、各種スポーツ技能のさらなる向上を意識させた。</p> <p>ウォーキングやジョギングについては、自分に合ったペース、友達と会話ができるペースで行わせることによって、無理なく運動が続けられるようにした。”</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>履修者75名中、2名（.7%）が履修を放棄した。履修者73名の最終的な成績の平均値は84.7（±9.0）点であった。成績分布別にみると、90点以上が23名（31.5%）、89～80点が34名（46.6%）、79～70点が9名（12.3%）、69～60点が6名（8.2%）であり、60点未満が1名（1.4%）であった。ほとんどの学生が標準的レベルに達しており、78.1%の学生は理想的レベルに達していた。</p> <p>授業評価アンケートに回答した50名の学生の到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が25名（50.0%）、「わりにそうだと思う」が20名（40.0%）、「まあまあそうだと思う」が5名と（10.0%）であり、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値4.4）。</p> <p>「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）についても、「かなりそうだと思う」が21名（42.0%）と18名（36.0%）、「わりにそうだと思う」が15名（30.0%）と10名（20.0%）、「まあまあだと思う」が12名（24.0%）と18名（36.0%）、「少しそうでないと思う」が2名（4.0%）と4名（8.0%）であり、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値4.1と3.8）。</p> <p>「態度（DP4）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目9）についても、「かなりそうだと思う」が16名（32.0%）、「わりにそうだと思う」が17名（34.0%）、「まあまあだと思う」が15名（30.0%）、「少しそうでないと思う」が2名（4.0%）であり、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.9）。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

総合人間科学・全学共通科目の「女性と健康」領域に含まれる科目である。ラケットスポーツ（バドミントン、卓球、テニス）の技術練習およびゲームを行った。「全体を通じた」学生の到達度自己評価では、ほとんどの学生が肯定的な回答を行っていた。また、「知識・理解（DP1）」、「態度（DP4）」、および「技能・表現（DP5）」に関する学生の到達度自己評価でも、ほとんどの学生が肯定的な回答を行っていた。これらのことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生による授業の質評価は、平均値が4.0～4.4であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。
本科目では、ラケットスポーツおよびウォーキング・ジョギングを実技として行うため、講義の時のような予習・復習を必ずしも必要としていない。そのことを反映してか、ほとんどの学生は予習・復習を行っておらず、その必要性もないと考えている学生も数人いた。このことに対しては、ラケットスポーツのルールや練習方法などを調べさせ、レポートとして提出させるなどしたいと考えている。
また、日常生活を活動的に過ごすことが、健康や体力の維持・増進につながることを考えれば、学生自身に日々の歩数や消費カロリーを記録させ、それを提出させることは、運動することへの動機づけになると考える。すでに学生の中には授業以外で日々意識的に歩いたり、トレーニングなどを行っている者もいた。来年度は、このような活動的な学生が更に増えるように工夫したいと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

概ね目標は達成できたと考える。
今後の課題としては、本実習以外でも積極的にからだを動かす学生の数を増やすことである。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
女性史	2	後期	選択	いいえ	80

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>近代日本の女性史の学習を通して、現在に続くジェンダー問題の所在を確認することを重点化し、教育制度やメディアが意識形成に与えた影響を取り上げながら授業を進めた。初回に女性史を学ぶ意味が「伝統」を疑う知的根拠を獲得すること、そのためにジェンダーの視点で歴史を見直すことを伝え、全講義の流れを、明治時代、大正時代、15年戦争期、高度成長期、21世紀までであること確認した。中学高校までの歴史の授業で得た知識を反芻することが準備になることを確認した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>明治から戦後に至る近代日本の女性史に関する基本的な知識を理解することを目標としていたが、歴史に関する基礎知識量や歴史的関心の差が学生間で見受けられた。試験前に、授業の総復習をして、ジェンダーの視点でみる近代日本の女性の位置づけを確認した。特に重要なポイントについては、各授業の課題を各自で振り返ることで理解を深めるよう勧めた。授業評価では、授業後に気になるテーマ（例：選択的夫婦別姓）を調べてまとめた学生も存在した。試験の結果からみると、ポイントはおおむね理解しており、他科より平均点は高かった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

現在の社会経済フォーラムが示す日本の女性の地位の低さの原因を歴史的背景に見出し、産業化と女性の民主化と関連付けて理解できるよう、ネットで取得できる最新のデータを示した。また、テレビや映画で描かれた女性像もネット動画で視聴できるものを活用し、時代背景を映像で確認するとともにジェンダーの視点で映画や雑誌の製作者の意図を考えさせた。おむね内容的妥当性は認められるが、当事者性を持って考えるまでに至らない一部の学生は存在した。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

初回の授業で、通説となっている歴史観をジェンダーの視点で見直すと新たな歴史が見えることを伝えた。授業では近現代史が中心であるが、各自の高校までの歴史授業による知識量に格差がある点を踏まえ、インターネット上の図表や動画も使用した。他学科も合わせると人数が多いため、双方向のやり取りができないのが課題である。改善策としては、前回の授業課題レポートをもとに振り返る時間を確保するようにしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

女性史は範囲が広いと、主に日本の近代史を中心に絞り、現在の女性の状況と関連付けて授業を進めたために、生徒の関心を現状のジェンダー課題、すなわち根深い固定的性別役割分担意識の原因である家父長制であることについて考えさせることができ、実感を伴いながら知識の理解を深められたと評価できる。今後は、日本の家父長制が根付いた経緯を古代・中世までさかのぼりつつ、世界史的にも家父長制の歴史を触れてその普遍性への理解を深め、現在の国際的なジェンダー平等の現状から日本の課題を改めて客観的に考えられるよう思考力を高めていきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
文学	1	後期	選択	はい	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>文学とは何か、という考察から始め、人が生きていくうえで関わるすべての事象・・・つまりは「実学」を学ぶものであることを、多くの上質の文学作品を通して究明していった。そして最終時にはいかに生きてゆくのか、といったシンプルではあるが自身のアイデンティティーと向き合い、活力となる原点を導き出すことを学ぶのである。そうして初めて物事を解釈するという文学に原点に到達することを説きつつ講義を進めていった。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生たちは毎回の講義において非常に熱心に取り組んでいたように思う。また学生からの質問や感想文も活気にあふれていたことと、意欲もあり、関心の要になるものを把握してくれているように感じた次第である。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

カリキュラムマップ等々における本科目の位置づけについては、良かったと思っている。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生たちの集中は途切れることなく反応はかなり良かったように思う。向上心も高く、殊の外、レポートの書き方・論文のまとめ方については熱心に取り組んでいたのもう少しマンツーマン指導を増やすべきであったと思っている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

達成状況の総括的評価としては、75%までは習得できたのではないと思う。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
日本国憲法	1	後期	選択	はい	86

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>回答者数は50名（回答率58.1%）であった。受講動機を見ると、「単位数を確保する」46.0%、「資格取得に必要である」38.0%、「関心のある内容である」24.0%であった。教職必修科目であり、かつ保健師の資格取得に養護教諭II種が必要であることから、看護学科の多くの学生が履修したと思われるが、ほぼすべての学生が教室の後方1/4に固まって着席していたことは残念である。憲法は学生自身の今後の生活や人生に関係が深い、ということを明確に伝えることを心掛けた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>今年度はすべて対面で授業で行ったが、成績評価は昨年度と同様に、授業中の確認テスト、コメントおよび後期終了時のレポートを用いた。素点の平均点は76.79点であった。不可と評価した者は2名（ほか出席数不足の学生が2名）、理想的レベル（90点以上）に達した者は3名であった。学生による到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値がともに4.3、「自分なりの目標を達成した」の平均値が4.2、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均値が4.1であった。他の項目の平均値は3.6-3.9の間にあり、昨年度とほぼ同様の平均値を示している。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみると、本学は「総合人間科学」科目であり、教職指定科目でもある。加えて、将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、援助の対象者を人権の主体たる個人として理解するための基礎を得るためには重要であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。②DP行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考え。よって、内容的妥当性には問題ないと考え。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価のうち、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値はともに4.4、「説明は理解しやすいものであった」の平均値は4.2、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値は4.0であり、昨年度よりわずかに数値が低下している。他方、講義の冒頭で予習・復習の具体的な仕方について説明したが、予習を全くしなかった学生は43名、復習を全くしなかった学生は38名で、昨年度より割合が増加している。また、授業の課題以外の学習に取り組まなかった学生は43名、取り組んだ学生は7名であった。授業以外の学習として、「政治家についてと少子化についての政策をしらべた」、「気になった裁判内容を調べた」などの記述があった。他方、授業以外に学習していない理由として「授業で十分理解できたから」、「他の課題で忙しかった」、「何をすれば良いか分からなかった」などの記述が多く見られた。学生からは、「教員の声が大きすぎた為、毎回の授業で頭と耳の痛さを感じていました。教員が担当していた前期の教科（報告者註：「法学」）では、レポートの提出はテスト期間後だったのに対し、後期の教科ではテスト期間中に提出しなければならないことは、授業方針が不平等であり、不審に思いました」との意見があったが、これについて、まず、マイクの音量については、授業中に申し出ていただきたい。レポート提出期間については、前期・後期とも第15回の授業日から10日間に設定していたが、法学の第15回は前期試験開始の前日、日本国憲法の第15回は後期試験開始の1週間前であったため、日本国憲法のレポート提出締め切りが後期試験期間中に設定することとなった。レポートの受付期間そのものは前期・後期とも同じであるので、教員の対応には何ら問題がないと考える。このほか、「生徒同士で憲法について討論できる機会があればより面白いかなと思いました」との意見があった。履修者数が多いので講義内で討論を行うことは難しいが、学生からのリアクションを促す何らかの方策は考えたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、豊かな人間性と社会性を支える幅広い教養としての基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考える。今後は予習・復習の習慣がさらに定着する方策を検討したいと考えている。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	桐原 隆弘

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
人生と哲学	1	後期	選択	はい	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>教科書をもとにした資料を用いて、学生に教科書を読ませ、空欄補充により用語やその意味を理解させるよう工夫した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>例年、授業は難しすぎて理解できなかった、という直截的批判があるが、レスポンスペーパーや試験結果をみれば内容をおおむね理解していたことが分かる。今年度も同様で、とりたてて難解な内容・説明に終始してはいたわけではない。</p> <p>アンケート（特に自由記述）を根拠とすれば、上記の評価は導き出せないように思われるかもしれないが、教員としてはあくまでもレスポンスペーパーや試験での学生の反応を中心にみる。その観点から、上記のように判断した。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

おおむね妥当であった。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

数年間、「人生と哲学」を担当し、レスポンスカードと試験での優秀な見解、答案をみてやりがいを感じてきたが、その反面、学生評価のなかの厳しい表現に意気消沈させられる。その文面からは、テキスト選定、講義資料の作り方、説明、いずれについても不適切であったかのような印象を受けるかもしれない。教員自身の観点はこれとは異なるので、だからこそアンケートとこのリフレクションカードの両方があるのだろう。授業評価について学生の視点と教員の視点から意見交換し、授業で得たものについて共通の見解を見出すという、建設的な方向は打ち出せないものだろうか。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

学生は難解な内容にもかかわらず授業に必死でついてきてくれたと思う。この経験を活かせる場面があればと願う。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	森 敦嗣

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
比較文化と国際理解	2	後期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は選択科目であるが、科目名は多様な内容を含んでいる。例年言えることだが、関連分野以外の学科の学生にとっては具体的に何を学ぶかをイメージしにくいことが課題として挙げられる。2022年度の受講動機をみると「関心のある内容である」を動機とする回答が観光文化学科90.9%、福祉学科および看護学科83.3%に対し、英語学科では66.7%と、学科によって開きがあった。開講時点で関心意欲がそれほど高くない受講者もいることはある程度想定していたため、授業では毎回の授業内容に関わる様々な「確認チェック」という名のQ&Aに答える作業を行わせて彼らの関心を高めることを試みた。</p> <p>②本科目の授業では専門的な用語が頻出し、授業内容の理解が困難となる学生が出るのが想定された。そこで毎回の授業の終りに授業内容のまとめ問題を実施し、授業全体の復習を行った。</p> <p>③比較文化に関しては授業の内容だけではイメージしにくいいため、受講者達には「差別」そして「異文化対立」に関連する具体的な動画を見せた。さらにそれぞれの動画内容について学生自身の考えをレポート形式で書いてもらった。</p> <p>④昨年度の課題として受講者が予習復習にかける時間がやや少ないという点が挙げられた。そこで今年度の授業では授業内容に関する知識理解を確認するための小テストを2回実施した。加えて小テストを行う前の週にテスト範囲の予告を行い、予習に時間をかけるよう促した。また今年度も受講者にはテキストを購入してもらい、授業の前に関連個所の予習をしてもらった。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>本科目は4つの学科にそれぞれ所属する学生が受講していたが、受講者全体の最終的な成績の平均値は80点以上であった。再試対象となる学生は数名いたが、いずれも再試験にて合格点に達したため、全員が標準的なレベルに達したと言える。</p> <p>目標別にみると、知識理解に関しては本試験の対象問題の結果を見る限り83%であった。これに関しては本試験前に知識理解を高める小テストを2回実施したことが結果につながったと考えられる。学生の到達度自己評価に関するアンケートでも、「自分なりの目標を達成した」の回答が4学科平均4.0であった。態度については昨年度みられたレポート問題の提出が遅れる受講者は、やむを得ない欠席による遅れを除いてはほぼいなかった。映像関連に関しては授業を欠席した場合観ることができないため、対応として後日こちらから映像媒体を渡し、個別に視聴させてレポートを書かせた。</p> <p>前年度の課題であった学習量の評価では「授業前の準備に30分以上かけた」と回答した受講者の数は4学科合計で70%以上であった。同様の問いに対する前年度の回答は半数であったため、前年度からさらに大きな改善がされたといえる。また「授業後の復習に30分以上かけた」と回答した受講者の数も4学科合計で70%以上であった。受講者の自由回答でも「小テストがあったことで授業後の復習時間をとるようになった」という記述があり、今回小テストを実施したことが大きな効果をもたらしたと思われる。来年度も引き続き行っていきたい。</p>					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、 「学習到達度の自己評価」、 「学習量の評価」、 「学修のための情報利用」、 「図書館、インターネット利用」、 自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性
本科目は選択科目ではあるが、総合人間科学の共通科目の位置にある科目である。総合人間科学のカリキュラムポリシーには幅広い教養と異文化理解の基盤を養うことを方針としており、本科目はその方針からみても内容的には妥当であると考えられる。

②DP、行動目標からみても内容的妥当性
知識理解に関する達成度は、成績評価および到達度自己評価の平均値をみても達成されたといえる。態度についても、昨年度のようにレポート提出が遅れる学生はほとんどみられず、レポート内容自体も一定の基準値以下はなかったことから、内容的には妥当であったと考えられる。

③まとめ
以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生による授業評価においては、ほぼ全ての項目において高い評価が得られた。ただ公欠による小テストの評価基準に関して明確でないとの回答があった。これに関してはこちらの説明不足であったと反省し、次年度からは該当者がいた場合は評価基準について明確に説明する予定である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

前年度の課題であった予習、復習含めた授業時間の向上は、小テストの実施と事前の試験範囲の予告を行う事により、先述したように大幅な改善が見られた。特に予習復習ともに30分以上の時間をかけたと回答した学生の数が全体の70%以上いたことは、これまで数年間の授業評価結果をみても過去最高の数値であった。小テストの実施と事前予告は授業時間の向上に非常に効果的であるということが判明したため、次年度も引き続き行っていきたい。

今年度の課題としては本試験、小テスト評価の明確化があげられる。これに関しては、小テストについては採点后に点数を表記して返却し、質問のある学生に関しては個別に対応していく。本試験については次年度より試験終了後に模範解答を提示することが必須となったため、この方法で改善を行いたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	矢原 充敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報処理演習	1	後期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本授業は、前期の「情報処理基礎」の内容を受けて、ICTの応用的な活用手法の修得を主目的とした授業である。「情報処理基礎」で基礎的なスキルと知識は終えているため、本科目では、PCを用いてより実務的な表現手法やデータ活用手法の修得に重点を置いた。</p> <p>受講動機では、「関心のある内容である」の比率が例年に比べて高くなっているが、受講者が少ないことから単純評価は難しいと判断する。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は85点であり、再試験対象者は0名であった。評価「優」「良」の学生が9割以上である結果から、授業目標である理想的なレベルを達成できたといえる。受講者が少数であり、学生個々への指導時間をしっかりとることができたことの結果であると考えられる。</p> <p>ただ、学生の到達度自己評価でみると、「まあまあそうだと思う」、「わりにそうだと思う」の比率が高くなっている点は、今後十分か改善を図っていく必要がある。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は科目区分「総合人間科学」の「環境と情報」に位置づけられ、社会人基礎力あるいは4年間の学生生活において必要とされるICT基礎スキルと知識を修得する目的で、1年生前期の「情報処理基礎」に引き続き後期に実施される選択科目である。前期の「情報処理基礎」で修得した基礎スキルと知識を活用し、より実務的なデータ等の取り扱いや様々なICTスキルの活用手法等を理解させるよう工夫し、学生も所期の成績を収めており、かつ授業評価の結果からも、その内容については妥当であったと考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 基本スキルや知識は問題ないが、それらを組み合わせてどのように活かしていくかという点では、その発想力に問題を抱えているが、成績面では内容的に妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、専門分野との関係性について多少改善すべき点はあるものの、内容的妥当性に問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生の意見は、特にここで特筆すべき内容は見当たらなかった。看護学科という特性を考慮し、扱うデータや課題内容等に専門性を意識させる内容をどのように取り入れていくかについては、次年度に向けさらなる検討をしていきたい。今年度は受講者が少人数であったため、個々に応じて適切な指導や課題提示を行うことができたが、受講者が増えた際の対応についても検討していきたい。</p> <p>また、授業以外で如何に活用させるかということも授業のテーマとして取り組んでいたが、授業の課題以外ではほとんど取り組まれておらず、十分な結果を残しているとは言えない状況である。これについても、どのように授業時間以外での活用を促すかについては、再度検討したい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は、科目区分「総合人間科学」の「環境と情報」に位置づけられており、社会人基礎力あるいは4年間の学生生活あるいは社会人基礎力として必要とされるICT基礎スキルと知識を修得することを狙いとしているが、その目標は概ね達成できた。ただ、看護という専門職の中で本科目がどのように関係していくのかという点では、課題を残しており、さらなる向上を目指して検討する必要がある。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
北九州の過去・現在・未来	2	後期	選択	はい	80

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>総論人間科学の「地域創生」の中の科目であり、2年後期に設定されている。北九州についての基本的な知識を外部講師の講演から学び、地域や国際社会の課題について、自分が学んでいることをどのように生かせるのかということを考えるよう授業を設計した。全学共通で講座が開かれているので、オンラインのポスターセッションを実施し、それぞれの専門分野のことについて互いに学び合える場も設定した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>全員の最終的な成績が標準的なレベルを超えており、到達度自己評価では6つの項目についてそれぞれ1～2名の学生が否定的な回答をしているのを除いては、肯定的な回答をしている。また、レポートや発表なども、専門教育科目で学んだこととこの授業内で学んだことが反映された内容になっており、教育目標は概ね達成されたと考える。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性
本科目は総合人間科学の「地域創生」の中の科目で、2年前期に設定されている。大学がある地域のことについて学ぶとともに自分の学んでいる専門分野をこの地域でどのように生かせるかということについても考える内容となっている。学生の成績についても、標準的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。

② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性
DPの各項目について目標が達成されていることから内容的に妥当であったと考える。

③ まとめ
以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価について、ほとんどの学生が全ての項目について肯定的な回答をしているが、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」という項目について、1名の学生が「全くそうではないと思う」、2名の学生が「少しそうではないと思う」と回答している。また、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」という項目について2名の学生が、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」という項目については1名の学生が「少しそうではないと思う」と回答している。遠隔授業の形態での実施で、250名を超える受講生であったため、学生が発言する機会を作ることが難しかったため、アプリ等を使って学生が自分の考え等を授業中に表明できるように工夫したが、実験的な面もあり十分ではなかったと言えるのかもしれない。その部分を補完するため、Googleクラスルームやメールで常時質問等を受け付けるようにして対応した。一人一人の学生の反応を把握するのが難しいので、ほぼ毎回小テストを行なって、授業内容が学生に伝わっているかどうか確認しながら実施した。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

最終的な成績や到達度自己評価から、地域のことについて学ぶとともに専門教育科目で学んだことを地域の中でどのように活かすかということについて考えることを通して、学びを深めていくという目標はある程度到達できたのではないかと考える。しかしながら、受講生がかなり多いため、授業運営上難しい面も多くあったため、今年度は新たなアプリ等を活用したりしたが、さらに工夫を重ねたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キャリア開発	1	後期	必修	いいえ	90

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>初回に、この授業で労働政策や福祉政策、企業の雇用システムとの関連において自身のキャリア形成を考える力を身につけること、多角的な視点でキャリア形成をとらえられるよう多様な外部や内部の講師を招いていることを伝えた。また、初回では、ジェンダー平等について説明し女性のキャリア形成を考えるうえでジェンダーの視点が欠かせないことを意識づけした。2回目、主体的な意識で授業に臨めるよう、キャリアコンサルタント(外部講師)から学生と双方向的なやり取りをして、1年生の必須授業として受講を義務付けられているが受け身にならないよう工夫した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>メディアリテラシー、リーガルリテラシー、データリテラシーなど身の回り情報を読み解く力、自らのキャリア・デザインについて考える力は、各講義後の課題や、期末レポートで測った。特に、期末レポートでは、自分の望むキャリアにおける社会的課題を把握し、その解決方法について主体的に客観的に考えることができるかを評価した。レポート課題を出す際に、この評価基準を文書で説明し、キャリアをめぐる思考が個人的体験を根拠とすることにとどまらないこと、社会構造と関連づけることを明確にした。ほとんどの学生が基準を達成した。ただし、社会的課題の背景にある事象への言及が不足している学生が一部存在した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

自分の望むキャリアにおける課題を把握し、その解決方法について主体的に考えることができることを目的に、キャリアについての個人の意識がどのように社会的に形成されてきたかを学術的な視点による現状の制度の分析や歴史的背景を解説した。また、多様な講師が講義をすることで、現状把握はより深まったと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

講義で知識を得るだけでなく、外部講師の体験談を盛り込み、労働法では招聘弁護士が自身の関わった事件から法律を解説したり過労死された方の遺族から具体的な困窮状況を話してもらったり、ほかにも専業主夫の体験談、本学卒業生の職業生活、キャリアコンサルタントによるワークショップなど、共感的に主体的に自身のキャリアの可能性や社会的課題を理解できるような内容となった。今年度は、講義をすべて対面で実施することができ、昨年度と比べ学生とのやり取りも反応も見ながら進められた。各回の感想及び授業評価アンケートをみると、外部講師の話から刺激を受け、自分の関心のあるテーマでは自ら調べる学生もいた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

期末レポートなどから、概ね、学生が自身のキャリア形成について考える時間となったこと、自身の可能性について自信を持てるようになったこと、今後の学生生活の重要性に気づいたことは、評価できる。受講者人数が多いために個別的な対応がすべての学生とはできなかった。次年度はより多くの学生との活発なやり取りの工夫が求められる。また、看護学科の場合、キャリア形成に対する意識を高めるためには、看護職の多様な業種の存在を理解することが早い段階で必要と思われた。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	阪井 俊文

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
実践キャリアプランニング	2	後期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、キャリア形成のために様々な時事問題を知っておくことの重要性を理解してもらい、担当者の専門である社会学の知見を基にして自身のキャリアについて考えてもらうことを目的としている。受講動機として、「単位数の確保」が多くを占めているものの、「関心のある内容だから」も同程度の割合となっており、本科目の意義についてはシラバスを通じて概ね伝わっているものと考えられる。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された			達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績評価のためのレポートにおいて、ほとんどの学生が、講義の内容を踏まえた上で自身のキャリアや人生設計について考えることが出来ていたため、本科目の目的は概ね達成出来たと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

アンケートの「自分なりの目標を達成した」「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」「職業選択の参考になった」などの項目で肯定的な回答が高い割合を占めていることから、内容は概ね妥当であったと考えられる。専門分野の知識を得られたか否かについての項目では、やや評価が低くなっているが、当科目は全学科共通の科目であり、専門科目ではないので問題ないと考えている。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

アンケートの結果から、受講者の多くが本科目の予習や復習にあまり時間を割いていない様子が見られるが、専門科目ではないため、あまり負担が重くならないよう意識しており、現状で問題ないと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

アンケートの結果を総合的にみて、キャリア科目としての目標は概ね達成出来ていると考えられるため、次年度に大幅な内容の変更は必要ないと考えている。コロナの影響などで社会に様々な変化が生じている中で、今の情勢に応じた内容の講義となるよう工夫していきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	笹月 桃子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護形態機能学Ⅱ	1	後期	必修	いいえ	91

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>膨大な範囲に及ぶ基礎医学知識に関する講義であり、学生の基礎知識（高校生物履修の有無）にも差があることが予想され、また受講動機にあるように必修科目であることから興味の有無と関係なく受ける科目であり、以下の点について重点的に取り組んだ。</p> <p>①なるべく平易に、また興味を持ちやすいように日常生活や医療現場での実例と関連させて、講義を行うよう試みた。</p> <p>②一方向性で知識を講義する形は避けられないが、講義中に随時学生の意見や考えを聞いたり、集中や注意が逸れないように、講義の進行に合わせて教科書と同じ図表をスライドに大きく示し、ハイライトや書き込みなどの指示も具体的に行うなど、心がけた。</p> <p>③内容のほとんどが新しく学ぶ知識であり、量も多いため、復習の支援と促しとして、前回講義の内容の一部について小テストを行った。小テスト後は、即日、その内容を振り返り、正解を共有することにより、時間差なく正確な知識が定着することを狙った。</p> <p>④折に触れ、医療に関するニュースや実例などを紹介し、看護師という職種の果たす役割、やりがい、責任に考えを馳せる機会を設け、社会人・医療者となる自覚と学習意欲の向上を目指した。</p> <p>⑤解剖学実習に向けて、事前学習と事後学習についてその意義について十分に説明し、また予習方法と事後レポートについては構造化した指導を行った。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

期末試験が60点に満たなかった学生は14名いたが、うち転学科及び退学者も含まれ、実際に再試を受験したのは7人であった。その学生らは合格ラインに達したとはいえ、同問題であったにも関わらず点数は伸びず、学習の取り組み方に難しさを抱える学生がいることも伺え、支援策の検討を要すると考えられた。

また、一年生で学んだ基礎知識が、以後の臨床系の講義や実習の基盤になることを伝えながら、いかに短期記憶として表面的に知識を丸覚えするのではなく、物語として、その因果関係を、疾患の理解・検査の意義の理解・ケアにつなげていくかを意識しながら学生が学べるよう、今後工夫を重ねる必要がある。

また臓器、機能系統別に、臨床の看護実践とリンクしやすいような工夫も今後必要と考えられ、他領域との連携も必須と考えられる。☒

学生からは、難しい内容を理解しやすく説明してもらった」「しっかりと復習していきたい、実習に活かしたい」と意欲的な姿勢がうかがえる意見が聞かれた。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

知識ベースの科目であり、その点においては、一定程度の達成が見られたが、その定着については評価は困難であり、継続的な支援は必要と考える。実践的には、毎回の小テスト実施と、その振り返りにより時間をかけることを今後重点的に検討する

学生たちの中に、基礎的な医学知識を学ぶ意欲や努力が見受けられたので、信頼関係を築きながら、その姿勢と得た力を維持できるよう支援の工夫を今後重ねていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

講義における「理解のしやすさ」の学生評価は高く、意欲や興味を持って臨んでいる姿勢が見られたが、それが知識定着に帰結しない現状があり、復習・振り返りや繰り返しによる強化を今後継続する。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	花田 浩和

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
臨床栄養学	2	後期	必修	いいえ	96

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機をみると「必須科目である」100.0%であり、「関心のある内容である」が11.6%であった。</p> <p>臨床栄養学に対する関心が低いことや基礎栄養学に対する理解度が低い可能性を考慮し、講義では、栄養と食について身近な話題を取り入れ、基礎栄養学と臨床栄養管理の情報を合わせて説明を行った。また、栄養管理に対して関心を高めること、栄養の専門用語を理解しやすいように配慮した。</p> <p>配布資料には、図や表を取り入れ、視覚的に理解できるようにした。</p> <p>栄養管理の基本である栄養素をバランスよく摂り入れることについては、糖尿病食品交換表の食品群分類表を使用し、疾患と病態に応じて栄養管理の目的と目標を設定できるように講義を行った。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>定期試験の平均点70.9点であり、受験者数88名に対して、理想的レベル（概ね80点以上）が24名であり、10名が合格点に達することができなかった。</p> <p>到達度の自己評価で、「自分なりの目標を達成した」とかという問いに対する回答の平均値4.1点であったことから、講義の内容と情報量としては概ね適当であったと考える。しかしながら、「情報利用」「計画立案」「図書館利用」の回答から、学生が主体的に取り組んでいない現状があるため、学習の働きかけや課題に対する取り組み等を積極的に進めるべきであった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけは妥当である。

臨床現場において、チーム医療の推進などにより、看護師が正確に栄養評価を行うことが求められるようになってきた。

看護師が傷病者の栄養状態を評価することや摂取栄養量を評価することなどの業務が増えていることから、基礎栄養学の知識を習得し、臨床栄養学を理解することにより、傷病者の支援や健康増進に役立てることが可能になる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

疾患の特性や病態を説明し、臨床栄養管理を理解できることを目的として講義を行った。

講義では、実際の臨床現場の栄養管理を紹介などを行い、臨床現場における栄養管理を身近に感じ、関心が高まることなどを目標にして講義を行ったが、かえって理解の混乱を招いた可能性があるため、情報の整理と簡素化を行い、慎重に情報提供を行うべきであった。

視覚的に理解しやすいように配布資料には図や表を取り入れるようにしたが、印刷で画質が著しく低下するため、画質の良いスライドを使用するべきであった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

臨床現場において栄養管理の重要性が高まっていることから、臨床栄養学の知識を高めることが患者支援において重要である。

基礎栄養学の説明を取り入れ、臨床栄養管理を理解できるように講義したが、疾患や病態の説明が不足した可能性があり、疾患によっては臨床栄養管理について十分な理解と情報提供ができなかった。

臨床栄養の知識を応用する技能表現を習得させるための説明と指導を十分に行うべきであった。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	宮川 弘

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
疾病学総論	1	後期	必修	いいえ	90

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>各種疾病についての基礎的な知識を習得するのが目的である。知識の習得に加え、実際の医療現場でどのように知識が役立つかまでを伝えたいと思った。分かりやすく記憶に残りやすい説明ができるよう、スライドと配布資料を準備した。</p> <p>約半数の学生が事前準備や復習を行っていないと回答。その反面、課題以外にも学習に取り組んだとの回答が4割であった。忙しい時間の中でも、興味が持てる事を学習する態度がしっかりあるのには感心させられた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>DP1：自分なりの目標を達成した、に関し、まあ・わりに・かなりそうだと思うが97.6%であった。</p> <p>まだ同様に、DP4：自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた、DP5:自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた、DP7：自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた、に関しても、まあ・わりに・かなりそうだと思うがそれぞれ96.3%、96.3%、95.2%であった。</p> <p>以上と試験もほぼ全員が合格した事を合わせ、教育目標が達成されたと考えた。</p> <p>DP6:自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた、に関しては、半数以上がかなりそうだと思うと回答。図書館利用や学術データベースの利用はほぼなかったようであるが、今後利用が増えることを期待したい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

必修科目であるため選択、との回答が100%。本科目の性質上、妥当と考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

質の評価に対する回答で、説明は理解しやすいものであったは否定的意見は8.4%、肯定的意見は91.6%であった。理解しがたかった内容に関しては、質問を是非してほしいと感じた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

たくさんの知識を習得する必要があり、エネルギーが必要な分野ではあるが、意欲的な態度が充分にあり、比較的容易に知識の伝授が行えたと感じた。将来それらが役に立てば、こちらの喜びである。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
疾病学各論Ⅱ	2	後期	必修	いいえ	96

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>疾病学各論は、主要な疾病について概念、疫学、症状、検査、治療法、予後などを解説するものです。疾病の知識は、看護科目を学ぶうえで基礎となり、将来に臨床現場で看護業務を行うために必要不可欠です。看護師国家試験でもこの範囲から多くの問題が出題されます。</p> <p>とにかく範囲が膨大ですので、臨床現場で重要なことや国家試験に出題されることを中心に、ポイントを絞って解説するように工夫しました。また、臨床現場での経験談なども紹介して、学生さんが興味を持って取り組めるように心がけました。</p> <p>疾病学各論Ⅱは、前期科目の疾病学各論Ⅰに引き続くもので、内科疾患（腎臓疾患、血液疾患）、小児科疾患、精神科疾患が範囲です。内科疾患は私が担当しましたが、小児科と精神科は専門医に講師を依頼しました。</p> <p>授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」が100%ですが、「資格取得に必要である」の回答も35%以上で看護師になる自覚や国家試験に意識を持ち始めた表れと考えます。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	やや達成された		

<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>期末試験（内科、小児科、精神科）と授業貢献度の総合判定で、平均値は77点（最高100点、最低54点）でした。理想的レベル（80点以上）に到達したひとは全体の44%でした。例年より全体に点数が低い傾向にありました。内科、小児科、精神科の平均点に大きな差はありませんでした。皆さんが満遍なく勉強した表れです。</p> <p>授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、ほとんどの項目で「ままそうだと思う」以上の達成感を示す回答が大多数でした。コミュニケーションの評価がやや低いのは、主に医学知識を教授する座学の講義であるのでやむをえないと思います。</p>
---	---

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。看護の実践を学ぶうえで基礎となる位置にあります。この内容を理解していないと、今後の看護科目の勉強、看護師国家試験、将来の看護師としての業務の全てにおいて支障を来します。

「疾病学各論II」は1年次の「看護形態機能学」「医学総論」、2年次前期の「疾病学各論I」「薬理学」で学んだ知識に基づいて、同時期に開講する「看護のための臨床検査」と連動して授業を行います。

試験結果、学生さんの到達度自己評価などからみて、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけからみて、内容的妥当性に問題はないと考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業評価アンケートの授業の質評価をみると、ほとんどの観点において「わりにそうだと思う」以上の評価を得ています。しかし、例年より「まあまあそうだと思う」が多くあります。遠隔授業の方が理解が深まったのかもしれませんが、次年度の課題です。学生参加に関しては他項目に比較すると評価が低いのは、知識を教授する授業の性質上やむをえない面もあります。

自由記述でも授業内容や形式について肯定的な意見が多かったです。以前に改善要求が多かった精神科に関しても、否定的な意見はありませんでした。次年度も基本的に今年度の方針を継続していきたいと思います。

授業評価アンケートの学習量をみると、30分程度の復習を2回以上行っている学生さんの割合が例年より低いです。次年度は授業中に予習・復習の必要性を強調したいと思います。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目は、臨床現場で看護を実践するために基盤となるもので、看護師国家試験に合格するためにも不可欠です。学生さんによる成績差はありますが、大多数のかたは標準的レベルに到達することができたと判断しました。しかし、例年に比べて成績不良者が目立ちます。今後も病院実習などを通して疾病に関する興味を高め、自分で勉強を進めていって欲しいと思います。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	高橋 甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護のための臨床検査	2	後期	必修	いいえ	97

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>臨床検査は、診断の確定、重症度の判断、治療効果の判定などのために行われる。検査の目的、実施法、看護上の注意点について、検査内容と疾病とのつながりを系統別に組み立てた。これらの臨床検査で得られたデータの知識を用いて、3年次の看護過程および実習でアセスメントするための基礎的能力を養う。</p> <p>受講動機は「必修科目である」が最も多く100%であった。次いで「資格取得に必要である」35.4%、「単位数の確保」20.8%であった。</p> <p>検査の目的・意義や基準値は「一般問題」「状況設定問題」において判断を求める問題が出題されている。そこで、毎回、講義開始前テストと単元終了時に講義内容を踏まえた小テストを実施し、基本的な検査の目的や基準値などの知識の定着を促した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①96名が履修を行い、総合評価の平均値は70.8 (SD10.4) で、昨年度とほぼ変わらない結果であった。54名の学生が標準的レベル（70点以上）に達しており、理想的レベル（80点以上）に達した学生は23名だった。不可6名は再試験の結果にて合格とした。1名は欠席により受験資格を失った。</p> <p>②DP観点別の成績は、DP1-2（知識・理解）は、得点率69.6%、DP2-1（思考判断）は、得点率72.2%で、昨年度変わりなかった。</p> <p>③学生の到達度自己評価の平均値は、4.2 (4.4-3.8) で、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」4.4で最も高く、次いで、「自分で学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」4.3であった。一方、「コミュニケーション力や表現力を高めることができる」は3.8と最も低かった。</p> <p>④授業の質評価の平均値は4.2 (4.4-3.9) で、「評価基準は明らかであった」「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」4.4、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」4.3であった。「授業中に、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」が3.9と低かった。</p> <p>⑤学生の学習量評価は、1回30分以上の予習・復習をした学生が、それぞれ、77.1%・79.2%であった。詳細には4.5回以上した学生が、予習29.1%、復習31.3%であった。課題以外の学習に取り組んだ学生は、58.3%という結果であった。自由記載から、「小テストに向けた復習」「分からないところや、言葉の意味、数値を確認した」と主体的に学習に臨んでいた。</p> <p>⑥図書館の図書・雑誌の利用は33.3%、学術データベース利用33.3%、インターネットホームページ利用75%であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性
形態機能学で学んだ既習の知識と本科目と同時並行で学んでいる疾病学、成人看護学方法論と結びつけながら修学するような構成としている。科目の位置づけとしての内容は妥当であるとする。

②DP、行動目標からみての内容的妥当性
評価点、観点別学習達成度（知識理解、思考判断）及び学生の到達度自己評価などから、科目内容は妥当であるとする。

③まとめ
以上より本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であるとする。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①学習達成度、到達度自己評価、授業の質評価の結果は良好であった。

②自由記述に、「小テストに向けた復習」「授業内で分からなかった部分を調べた」「基準値を覚えるために基準値カードを作成した」とあり主体的学習を行っていたと思われる。

③講義前の確認問題は、検査の目的、基準値を定着することをねらいとした。グーグルフォームを活用して回答をさせたことで、その結果を用いて解説を行うことができた。そのため、学生の知識の定着に繋がったと考える。

④講義後の小テストは、講義中の学びの確認のために実施した。学生の自由記述から学習することへの動機づけになっていたと考える。しかし、個人の成績を開示していないため、30点中何点正答しているか分からない状況である。次年度は個人成績を開示し、本試験への動機づけにしていきたい。

⑤演習では、尿検査、呼吸機能検査、心電図検査の演習を行ったが、実体験するには1コマでは短く、効果的ではないと考えられ、次年度は時間配分の検討を行う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目は「看護を学ぶための基礎」に位置づけられる。既習の形態機能学や疾病学の知識と後期開講の成人看護学方法論で学ぶ看護と結びつけながら修学する構成としている。学生の「日々の学び」のコメントに「他科目で学習したので復習になった」という記載がみられており、今後も他科目との進捗の確認と学びの繋がりを意識して講義展開を行っていきたい。

また、グーグルフォームを活用し、検査値の確認試験や小テストの説明や結果を学生に反映させ、学習の動機づけにしたい。

さらに、患者体験を取り入れているが、1コマでは短すぎるため次年度は時間配分を検討したいと考える。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保健統計学	1	後期	必修	いいえ	91

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>保険統計学は、人間集団における健康や疾病の状態を観察および解析して、それらに影響を与える要因を明らかにし、疾病の予防やコントロールを行うとする社会医学の基礎です。臨床医学でも EBN: Evidence Based Nursing (根拠に基づいた看護) を行ううえで保健統計学の知識が必要です。また、保健師の業務には密接に関連する領域であり、保健師国家試験にも保健統計学に関する問題が多く出題されます。</p> <p>学生にとって馴染みの薄い分野ですので、自著の教科書「看護学生のための疫学保健統計(改訂3版)」を使用して、基礎から分かりやすく解説するように心がけました。授業の前半は前回の復習にあてるようにしました。</p> <p>授業評価アンケートの受講動機をみると、ほとんどが「必修科目である」ですが、「資格取得に必要である」「関心のある内容である」の回答も10%以上で見られます。看護師や保健師になる自覚や国家試験に意識を持ち始めた表れと考えます。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>期末試験、課題レポート、授業貢献度から評価した最終成績は平均値72点(最高値97点、最低点34点)でした。例年に比較して平均点が10点以上低いです。理想的レベル(80点以上)に到達したひとが36%でした。例年の半数です。学生間で成績のばらつきはありましたが、全体的に例年に比較して達成度が低いです。授業方は例年と変化ありませんので、成績不良の原因が不明です</p> <p>授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、馴染みのない分野にも拘らず、多くの項目で「まあまあそうだと思う」以上の評価でした。皆さんが懸命に勉強した表れだと思います。コミュニケーションの項目などが低いのは、知識を教授する座学という性格上やむをえないと思います。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。社会医学の基礎であり、臨床現場でのEBNや看護研究などでも必要な知識です。この内容を理解していないと、今後の看護学科での臨床医学に関する授業、看護師・保健師国家試験、将来の看護師・保健師としての仕事において支障を来します。

試験結果、受講生の到達度自己評価などからみても、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけにおいて内容的妥当性に問題はないと考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業評価アンケートの授業の質評価をみると、どの項目も「わりにそうだと思う」以上の評価です。ただ、「学生が参加する機会が作られていた」の項目が低いのは例年の課題ですが、知識を教授する内容がメインですので、なかなか難しいです。

自由記載では肯定的な意見が多かったです。基本的には現在の授業スタイルを継続したいと思います。

また、学習量をみると、30分程度の予習復習を2回以上行っている受講生が約1/3でした。図書館やインターネットを利用したひとが少ないことは反省点です。次年度はレポートの課題内容などを工夫したいと思います。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目は保健師コースを選択するひとはもちろん、看護学科の全ての学生さんに必要な内容です。看護学科の1年生にとっては馴染みのない分野であったにもかかわらず、頑張って勉強されたと思います。しかし、学生間で成績のばらつきがありますが、全体的に成績が過去最高に悪いです。授業の内容は基本的に変えていませんので、これから原因を解析して、次年度の授業に生かしたいと思います。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会保障概説	1	後期	必修	いいえ	92

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>社会保障概説は、中学・高校で学んだ「公民」の内容が基盤であるが、看護学科の学生は法律や法律用語に最初からかなりの苦手意識がある。受講動機を見ると、「必修科目である」が100%で、「関心のある内容である」が12.5%（昨年度12.4%）と、授業準備性としてはかなり低い状況であった。また、「資格取得に必要なである」は26.4%（昨年29.2%）と、患者の看護に必要な知識であることの意味も全体の1/4であった。</p> <p>そのため、なぜ看護に社会保障の知識が必要か、どんな場面で社会保障の知識が必要か、を説明し、興味と意欲を高めた。また、法律名、福祉サービスの種類などなど、覚えてもらう事が必要なことから、中学・高校で学んだ内容から復習し、講義の流れに沿ったオリジナルプリントとスライドで解説した。そして、授業後に復習ができるように、プリントやスライドには教科書のページ数を記載した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>授業評価アンケートの「到達度自己評価」の結果では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることが出来た」の平均が4.3点（昨年度4.2点）が最も高かった。これは、例年の傾向であるが、今回、次に高かった項目が（平均4.2点）「学ぼうとしている学問分野の様々な課題を検討する力を得ることが出来た」「自分が学ぼうとしている専門分野についての確に判断する力を得ることができた」「自分なりの目標を達成した」「自分が学ぼうとしている専門分野について、学を深めたいと意欲を持つことができた」「職業選択の参考になった」と同点で5項目あった。</p> <p>「コミュニケーション力や表現力を高めることが出来た」の平均は3.7点（昨年3.4点）と最も低い。これは、科目の特性で知識の獲得を大きな目的としていることから、授業中にディスカッションしたり発表をする機会が少なかったからと推測する。特性に応じた到達目標を設定して、科目展開していきたい。</p> <p>「学習量の評価」では、全員が授業の記録を配布資料に書き込んだりノートを作成していた（昨年度96%）であった。一方、課題以外の学習に取り組んだ学生が全体の44%（昨年度45%）であった。大学生として、主体的学習に取り組んでほしい。</p> <p>最終的な成績は、平均点81.3点（昨年80.4点）であった。成績の内訳は、秀 16名（昨年6名）、優 39名（昨年60名）、良 19名（昨年24名）、可12名（昨年4名）、放棄 1名（昨年0名）であった。これを見ると、昨年より「秀」が大幅に増えている一方、「可」も大幅に増えている。レポート20%、定期試験80%で評価したが、成果が得られる学習に取り組めたかどうか、差が広がっている状況が伺える。</p>					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は、「看護を学ぶための基礎」として位置づけられて、DP1「知識・理解」-2)看護実践に必要な基本的な知識を修得している。およびDP2「思考・判断」-1)健康上の課題を解決するため、情報や知識を活用し論理的に思考判断できるを目標とし、看護実践の基盤に位置付けられている。1年生の科目で、健康や疾患でなく法律を扱う科目であることから、教養科目と勘違いする学生が多いように思われる。そのため、社会保険、社会福祉の制度、法的根拠、対象、サービス内容、を「知識・理解」を得るために解説し、患者を想定した事例を通して「思考・判断」をしていく授業展開にしていった。そのことは、法律の知識が看護にどう使うか、それを知らなければ患者にどう悪影響があるかがわかる仕掛けである。自由記載の中では、「公衆衛生で学んだことと照らし合わせていた」という記載があり、看護専門科目として認識し、しかも他の科目とのつながりを考えられていたことに感心した。看護師国家試験において、関係法規については一定数の問題が出題されている。そこで、実際の国家試験問題を紹介し、「国家試験にはこう出る」という練習問題を実施し解説していった。これらの問題に関して、学生の関心は高かったように感じた。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

本講義では、社会保険・社会福祉・公的扶助・公衆衛生を柱として、保健・医療・福祉の諸制度や法的根拠を解説している。また、看護教員だけでなく現職の社会福祉士・精神保健福祉士の外部講師から助力を得ている。外部講師から福祉の視点での解説を得て、それをその後の授業で看護場面での活用事例としての解説を行った。このことで学生は、法律を覚えることが目標でなく、患者に役立てる事が目標であることを意識してもらうための仕掛けであった。シラバスには予習・復習の指定はあるものの、「提出課題」は少なかった。"課題以外の学習に取り組んだ"が44%であった。授業評価アンケートの「課題以外の学習に取り組んでいない理由」はさまざまであるが、「自分なりの目標を達成した」の自己評価平均点が4.2点（昨年3.8点）であることから、今後も、授業内でも短期的な目標を設定して達成感を持たせるような動機づけを行っていきたい。

講義終了後に何人か教室の前に来て質問をしてきていた。また、毎回、出席シートに授業の感想、質問を記入してもらっており、記入された質問には、必ずコメントまたは口頭で回答していた。授業評価アンケートの授業の質では、「口頭、文書など何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の設問で、「まあまあそうだと思う」26%（昨年度26%）、「わりにそうだと思う」24%（昨年度24%）、「かなりそうだと思う」41%（昨年度45%）と、全体の92%がポジティブに回答している。一方、「少しそうではない/全くそうではない」は8%（昨年度4%）であった。質問しやすい関係と雰囲気を作るようにしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

法律や制度の講義でありながらも、覚える事と考える事をやっていく講義を目指した。そのためレポート課題は、自分で現代の社会問題を探して、そのことについて調べ、考えを述べるものとした。また、常に看護師として患者の役に立つことを意識させ、知識を実際の場面につなげていった。法律や制度は社会の状況によって変わる。社会の動きと制度の変更についてを意識して、常々、ニュース・報道を見たり社会調査の結果を見たりしていけるように意識づけたい。

定期テストは、一夜漬けの短期記憶で終わらないように「自筆の資料を持ち込み可」とした。そして、その資料は、講義資料と共に保存版とするように説明した。このことが、今後の自立した学習に繋がれたらいいと考えている。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	水貝 洵子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
臨床健康心理学	2	後期	選択	いいえ	65

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本講義を受講するにあたり、すでに心理学の講義を受講し基礎知識を有している学生もいたが、本講義において初めて臨床心理学を学ぶ学生もいた。そのため、初めて臨床心理学の講義を受講する学生に向けて、授業の前半部においては、臨床心理学の基礎知識についての講義を実施した。また、すでに基礎知識を有している学生もいることから、基礎知識がどのように看護の場面において観察されるか、あるいは活かされるかなどの応用的な話題にも触れるよう配慮した。</p> <p>「受講動機」をみると、「単位数を確保する」を選択した受講生が72.1%と最も高かった。学生の受講態度からも関心をもって受講している学生に限られていたことが推察された。講義内容に関心が持てるよう事例など具体的な話を交えながら解説をした。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された			
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>本年度の成績は、平均91.1点（標準偏差 4.9点）であった。この結果から、概ねの学生が授業の内容を理解し知識理解に関する授業目標 (DP1) を達成したことが考えられた。</p> <p>DP2思考判断力については、授業ごとに実施した授業評価アンケートの質的評価や「到達度自己評価」から、学生によってばらつきが大きいと判断し、「やや達成された」と判断した。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

初めて心理学の講義を受講する学生に配慮しつつ、事例などの発展的な内容に踏み込むことは、7回の授業回数では限界があった。授業内容を踏まえると、基礎的な学習を踏まえて受講できるようになると、より望ましいと考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

看護学科の学生は、心理学の講義を受講する機会に限られていると考えられるため、本講義において受講生の臨床心理学的理解が深まるよう、来年度以降も今年度と同様に、学生の質問等にも答える時間を十分に設けていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

学生によって授業への関心のばらつきが大きく、授業内容の選定や授業中の解説でどこまで深めるかの判断が非常に難しかった。なるべく多くの学生が関心をもって受講できるように考えた工夫（ワークの実施や事例の提示など）を実施したが、学生の受講態度からは工夫の成果は感じられなかった。試験の成績をみると、多くの学生が内容を理解していることが示され、DPに掲げた授業目標は達成されているようである。

授業中の様子と成績に解離があるため、全体的な総括が非常に難しい。心理学的知識の習得を授業目標としたが、できれば単なる知識の習得にとどまらず、目の前の対象者のところを大切にす姿勢や心理的視点からひとを理解しようとする大切さが伝わっていればと願う。

来年度の授業では、上記に示した本年度の授業で感じた難しさや課題が改善できるよう試行錯誤していきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	笹月 桃子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
医療と倫理	1	後期	選択	いいえ	70

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本講の目的は、学生自身が医療現場における事象あるいは課題の問題点がどこにあるかをただ知るのではなく、それらを把握し、その上で議論あるいは解決策への思索をする方法を習得することである。そうすることで、自ら新たな問題発見をすることも可能となる。</p> <p>講義においては、まず倫理的正当性とはいかに担保し得るのか、など、倫理的な思考アプローチについて学ぶ段階を置き、次に各論的問題を具体的に紹介しながら学生それぞれが自分ごととして考えることを促すために双方向性の議論をする機会を都度、設けた。最終段階として、思考実験も併せた問題提起をし、各自、それまでの倫理的思考アプローチを活用して理論立てて検討させる時間を設けた。</p> <p>また毎回講義内容を振り返られる目的で、次の講義の冒頭で小テストを行い、知識習得を促した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>受講動機に「関心のある内容である」とした学生82.1%であったこともあり、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は4.5、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」については4.4、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」についても4.5、と講義への意欲、興味は高いと考えられた。前年度より0.1～0.3pointずつ低くなっている点については、56人が広い講義室で集う状況で、緻密な議論をせざるを得ない環境が、講義の特性に合わないことが考察される。今後、課題として、より良い講義スタイルを検討したい。</p> <p>期末試験の平均点は86.0点であり、内訳においては、課題に対する自由記述項目については一定程度、力がついてきた（平均点17.8/20）が、具体的知識の定着については課題が残った（平均点50.2/80）。</p>					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、 「学習到達度の自己評価」、 「学習量の評価」、 「学修のための情報利用」、 「図書館、インターネット利用」、 自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

上述の通り、DP4の態度については、思考課題への取り組み、その内容についても意欲は高く、学生自身の自己評価も、高かった。
本年度は、映画を活用して、講義した倫理的課題を実際の現場から抽出する体験の促しを試みたが、学生の評価は高く、効果があったといえる。また、多角的視点をもたらされ、他者の意見から新たな気づきを得たとの感想も複数見られ、広い講義室の難点はあるながらも、双方向性の講義の意義も伺えた。本講義は、医療専門職となるために不可欠な知識と思考アプローチを習得する機会となり、看護学科1年生としてのステップとして重要な位置を占めることが考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

到達度自己評価・授業の質評価は全体的に高く、自由記述においても学生自身にとり意義あったことが伺えたが、知識の習得については、学生自身の自己評価と客観評価にやや乖離があり、思考重視の授業形態について、見直す箇所と考えられる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

8コマで医療における倫理的課題の全容を知ること、かつ考えられるようになること、の両面を網羅し、達成することが難しいが、講義の構造化により一定程度の効果が得られたと考えられる。映画を活用することにも一定の効果があつた。
今後は最低限の知識定着の強化を図りつつ、倫理的課題は時間的横軸に添い変容することから、知識を更新する力も併せて必要になることを念頭に次年度の内容を修正したい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	金山 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護倫理	2	後期	必修	いいえ	96

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>2年次後期の必修科目である。学生は、1年次に看護学概論、早期看護実習、生活援助技術論演習、フィジカルアセスメント演習、基礎看護学実習Ⅰなどの科目を履修し、看護職の倫理綱領や個人情報の保護など、看護倫理に関する学習機会を得ている。授業の実施にあたり、看護職の倫理綱領と人権の尊重についての理解に重点をおいている。</p> <p>2022年度は、隔週で8回の授業を実施した。講義は「看護倫理に関する基礎的知識」を概説し、「看護実践における倫理的課題と対応」について、複数の事例を用いてグループワーク学習を導入し、理解が深まるように工夫した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績は、定期試験とレポート、グループ学習により採点した。成績の平均点は81.0±9.9点であり、受験者全員が合格基準に達した。また、グループ学習後の自己評価では、看護倫理の視点にそった事例検討について、理解できたという回答が多かった。</p> <p>学生の授業評価アンケート結果から、到達度自己評価は、「自分なりの目標達成」の項目は、「まあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」の肯定的回答が100%であった。「新たな知識」「事象を理解する視点や考え方」「的確に判断する力」「表現力を高める」「職業倫理」などの項目においても、肯定的回答が100%であった。次に、学生の学習量の評価では、1回に30分程度以上の予習・復習をした人は約50%であった。授業時間外に学習した人は、「わからないところを調べた」「気になる事例を調べた」など、自主的に学習していた。授業時間外に学習をしていない学生の理由は、「他の科目の課題に追われていた」「他の科目が忙しかった」などの回答であった。</p> <p>情報利用では、57%がシラバスを参考にし、図書館の利用は約23%、図書館の学術データベースの利用は47%、インターネットのホームページ検索の利用は、約69%であった。また、学生の授業終了後の感想では、グループワークや他のグループの発表を聞いて、「さまざまな意見、視点があり、勉強になった、実習に活かしたい。」と意欲が見られた。以上のことより、看護倫理における学習目標は達成されたと考えられる。学生の講義への取り組み姿勢や図書館の利用、学習量については、今後も課題であり、工夫が必要である。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は、看護実践の基盤であり、2年次の学習科目となっている。知識・理解(DP1-2「看護実践に必要な基本的知識」の修得)、態度(DP4-1「看護実践者としての責任を自覚し、倫理に基づく行動ができる」)の達成を目標としている。学生の到達度自己評価および、試験、レポートなどから、看護実践に必要な看護倫理の基礎知識や倫理的課題と倫理的課題への対応などについて、基礎的知識と基本的な態度についての理解ができたと考えられる。

学生はグループの事例検討で倫理的課題と対応について学び、看護倫理の視点から、「今後の看護に求められる倫理」について、授業中に発表したり、課題レポートに記述をすることができた。

カリキュラムマップにおける本科目の位置づけは、基礎的な段階として、内容的に妥当であると考ええる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業は、隔週で8回実施した。授業の質評価について、「評価基準は明らかであった」「学習の範囲や課題は明らかであった」の肯定的回答は100%であり、「説明の理解しやすさ」の項目の肯定的回答は97%であった。今後も継続して、全員の学生が理解しやすいように説明を工夫する必要がある。

また、授業中に倫理的課題と対応について、グループワークで事例検討を行い、発表の機会も設定した。

学生の授業評価では、「自分の意見をまとめ、話し合う、発表するなど学生が参加する機会がつけられていた」の項目は、肯定的回答は100%であった。また、「事例について考え、わかりやすかった」という感想があり、複数の看護場面や、看護事例についての提示が効果があったと考えられる。

今後も、全員がグループ学習に参加して自分の意見をまとめ、話し合う、発表するという認識を持てるように、事例提供を工夫することが必要である。

さらに、学生の予習・復習について、授業外の学習量が増えるように、学習課題の量についても検討することが必要である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

総括的評価: 試験やレポート、グループ学習後の自己評価、学生の授業評価などから、学生は目標を達成できたと考えられる。

来年度に向けての課題は、社会状況の変化の中での看護倫理の最新情報を確認し、講義内容に導入することや、倫理的課題と対応についての事例の提供、学習課題の検討が課題である。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	樋口 由貴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
小児看護方法論	2	後期	必修	いいえ	94

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、看護の必須科目であり受講動機も100%が必須科目であると回答をしている。学生の準備性としては、本科目への関心は21.6%と興味をもっていている学生も多くはない。社会的に核家族化しており、子どもに接する機会があまりなく、イメージが付きにくいため学生にとって、健康な子どもも理解しにくい学生がいる中、さらに、健康障害をもつ子どもや入院中の子どもの姿はさらに想像しにくいと考えられた。そこで、視聴覚教材の活用をできる限り取り入れた講義内容にしている。また、実際の社会の中での子どもの健康問題に目を向け他者の意見にも耳を傾け自らの意見、考えを発表できる場を取り入れている。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績は、平均値は79.6点であった。70点台(良)が40名で、80点以上は50名（秀：4名、優：46名）と約97.8%の学生が理想的レベルに到達していた。再試験対象者は1名であった。</p> <p>目標別にみると、知識・理解に関しては82.5%、思考・判断に関しては78.0%、意欲・関心83.6%、態度81.8%であった。</p> <p>学生の到達度自己評価では、「自分なりに目標を達成した4.3」、「知識など新たに得ることができた4.4」、「専門分野について課題を検討する力を得た4.4」、「学びを深めたいと意欲をもつことができた4.4」であった。この結果から、意欲を持ち学ぶことはでき、知識・理解の習得ができたと考えられる。</p> <p>授業の質評価では、「テストの評価基準の明確さ4.5」、「課題の明確さ4.5」、「説明の理解しやすさ4.6」、「質問を受ける機会を設けていた4.4」であった。</p> <p>学習量の評価をみると1回30分の予習・復習を2～3回以上した学生が36.4%、課題以外に学習に取り組んだ学生が40.5%であった。</p> <p>以上の結果より、概ね学習はおこなえていたと考えられる。学生からは、「レジュメをまとめ復習した」「わからないところをノートにまとめた」、「動画などを見て理解を深めた」などの意見があり、講義資料の工夫として、復習できるようレジュメを作成し、教科書ページなどを記載するなどした。その活用をする学生がいる一方、「復習してない」と回答している学生もおり、学習を主体的に取り組む学生と、取り組んでいない学生の学習量に差が出ていると考えられる。意欲関心については、学びを深めたいと意欲を持つ学生が多く、この先演習や実習まで続けられるよう繋げていきたい。また、職業選択の参考にもなっているということで、引き続き臨床での看護師の姿や役割が見えるような授業の工夫を行っていきたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
本科目は「専門教育科目」の中の「看護実践の応用・展開」にあたる教科である。「看護を学ぶための基礎」や「看護実践の基本」を踏まえ、対象となる小児に対する看護の基本的な考え方や子どもの成長発達といった特徴を学んだ後、さらに健康障害をもつ子ども達の看護を学ぶための科目となっており、必修科目である。一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。

②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性
成績評価から目標はおおむね達成されており、学生からは「知識を確認、修正し、新たに得ることができた」「小児について興味がわいた」などの意見があり、内容的には妥当であったとする。

③まとめ
以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

講義内容は教科書と毎回の学生の学び票を参考に、学生が理解しやすい言葉を選んだり、言葉の説明だけではわからないところは、動画やイラストなど視覚的に理解できるように工夫した。また、今年度は2名の外部講師も依頼し、実際の現場での様子や、今学んでいる知識を現場でどう生かすかなどを具体的に講義した結果、学生から「理解しやすかった」などの意見や試験などの結果からも授業の進め方は概ね妥当だったとする。

昨年度「コミュニケーション力や表現力を多構えることができた」3.8、と学生間のコミュニケーションや発表の機会が少なかったと考えられたため、今年度は、レポートを学生が発表しディスカッションする機会を設けた。その結果4.1に上昇した。今後も講義中に学生が発言したり、発表する機会を設けていく。

授業の質評価において、概ね「説明は理解しやすいものであった」とした。講義形式のみでなく課題を与え個人で調べまとめ、発表する方法も取り入れたが、図書館の活用や学術データベースの利用、インターネットの利用をしなかったとした学生も8.6～38.0%いた。教科書レベルでの調べ学習となっていたことが予測されるため、社会の現状を知り、問題解決できる力を養えるよう、課題学習方法を検討するだけでなく、レポートの取り組み方を明示したりなど、多くの資料を読む機会になる様に工夫する必要があるとする。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

「専門教育科目」のなか「看護実践の応用・展開」で、子どもを対象とした看護の方法論を学ぶ本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については標準的レベルには達成できた。これを理想レベルに上げるため、わかりやすい講義の方法、内容の絞り込み等の検討を行い学生の理解度を上げていきたい。

授業では、病児や入院生活等をイメージしやすいように学生に好評だった視聴覚教材の活用や臨床で働く外部講師による講義などを継続し、他の学生との話し合いの機会を適宜盛り込むことで、自分の意見を述べる機会を増やし、他人の意見を聞き討議できる機会を引き続き設けていきたい。また、課題学習の方法も見直し、教科書以外の情報を得ながら、子どもをとりまく社会の現状を把握し、解決策を思考する力を養えるよう工夫していきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
母性看護方法論	2	後期	必修	いいえ	95

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は看護実践の応用・展開科目であり、3年生で学習する母性看護学演習やその後の母性看護学実習につながる基本となる重要な科目である。そのため、学生が、今後の講義や実習に関連していることを自覚し講義に臨めるように意識して取り組んだ。</p> <p>講義では、周産期における女性の妊娠分娩産褥各期および新生児期における身体的・心理的・社会的変化を中心に学ぶことになるが、周産期各期の変化は大きく、理解すべき知識や支援方法もかなり多い。そのため、できるだけ重要ポイントがおさえられるように、事前課題を提示し、準備を整えて学習に臨める環境を整えた。また、パワーポイントに示す資料も文字だけでなく、写真や図を使用したり、配布資料だけでなくDVDなどの視聴覚教材や模型などを活用し、学生が妊産褥婦、新生児の生理的变化をイメージ化できるよう工夫した。</p> <p>さらに、配布資料に教科書や参考文献のページを示し、講義後でも復習に取り組みやすくなることを意図した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	

<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均点は73点であり、80点以上の学生も38%みられ、理想的レベルを概ね60点以上として試験を作成し、最終的には全員が標準レベルに達した。</p> <p>DP別にみると、知識理解70%・思考判断78%・関心意欲60%であり、全て標準レベルを上回っていた。講義において教科書の範囲やや資料を提示し、繰り返し振り返ることが出来るように解説し、DVDや模型を活用しながら視覚からイメージできるよう工夫したことも、理解につながったと考える。</p>
---	--

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

必須科目であることから本科目を履修している。応用・展開科目であり、知識理解は目標達成されており、必要な知識はほぼ得られていると思われ、内容的に妥当であると考ええる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生による授業評価では、ほぼ100%の学生が知識理解や思考判断の観点で達成できたとしている。今後も日々の学習の積み重ねの大切さを意識できるような働きかけを行っていく必要があると考える。周産期はイメージすることが難しく、学習の難しさにつながっていることも推測される。しかし、周産期に関連する女性を取り巻く健康問題についての関心は高くなっている。今後も学生のニーズを把握しながら、より具体的な事例や聴覚教材を活用し、修得した知識を今後の講義につなげ、活用していけるように努めていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

看護実践の応用・展開科目であり、今後の関連科目につなげて活用していくために必要な、知識理解や思考判断については概ね達成できた。女性として自分自身の問題として取り組みやすい科目だが、受講動機で関心のある内容と回答した学生は半数程度であった。学生が、興味をもち、意欲を持って学習に取り組んでいけるよう、今後も学生のニーズを把握しながら身近なテーマとして取り組める教授方法を検討していきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	大嶋 満須美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
成人慢性期看護方法論	2	後期	必修	いいえ	95

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>成人期にある慢性病を持つ人とその家族のQOL向上に向けて、看護活動を展開するための科目である。本科目は2年生前期の「成人看護学概論」を基盤に系統看護学として発展し、看護実践方法について既習の疾病学や形態機能学などの知識を応用し、関連させながら教授した。意図することは、健康障害が生体反応として、どのように生活者に影響を及ぼすのか、健康障害のメカニズムと特徴を踏まえながら健康支援に必要な看護ケアについて思考・判断ができることである。学生は臨地実習の経験も少なく、疾患と健康障害によるイメージがつきにくい状況にある。そのため病態や症状のメカニズムについて説明を加え、看護の方向性について具体的に考えられるように授業をすすめた。学生には毎回、授業の学びや気づき、質問を記載してもらいフィードバックを心掛けた。また、科目の対象範囲が広いので、単元ごとの評価を行い、学生の到達度を確認しながら授業をすすめた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最高点は94点で昨年より高得点であった。理想とするレベル(概ね80点以上)には18.3%が到達できた。一方、総合評価は平均点69.9点で昨年を7.4点下回り、再試験対象者は9名、その内1名は到達出来なかった。到達度自己評価においては平均4.0、授業の質では平均3.9～4.2であった。授業評価では「まあまあ理解しやすいものであった」と肯定的評価であった。主体的学習姿勢においては、あらかじめ授業計画を立案した学生は57.4%おり、取り組み姿勢の変化が見受けられる。予習や復習の時間については昨年と同様で、予習や復習をしていない学生が30%程度見られた。またインターネット利用は72.1%、図書館の利用については39.3%が利用しており、これらは昨年より増加している。学習時間や情報獲得など主体的学修が深まるよう継続的に検討を行う。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CPカリキュラムマップ上の位置づけ
本科目は成人期にある慢性病を抱えている対象に対する看護実践の応用として専門教育科目に位置づけられている。必須科目であり、既習の疾患理解や疾患による生活への影響など、状況理解と対象に応じた看護支援の基本的な考え方など、看護実践に向けて理解が深まることを求めている。受講動機では「資格取得に必要」と、答えた学生は33.8%で、「興味関心がある」と、答えた学生は13.1%で増加傾向にある。3年次に開始される各看護学実習の展開においては基盤となる科目であり、内容や位置づけは妥当と言える。

②DP行動目標からみた内容の妥当性
本科目の行動目標として慢性病を持つ人とその家族の特徴や日常生活に与える影響、QOLを目指した援助のあり方や、自己の健康管理について述べる事が出来るとしている。これらの「知識・理解」の達成度は80%以上、「思考・判断」が61%であった。単元ごとの小テストにより「知識」は一時的に評価できるが、実践応用に向けた「アセスメント力(思考の深まり)」の育成について、継続的にかかわっていくことが課題である。

③まとめ
以上のことから内容的妥当性は問題ないが、学生の知識の定着、思考・判断力の育成を継続的に進めて行く必要がある。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

解説による一方向の授業になりがちのため、教材を使用し事象と関連づけながら具現化を図り講義を進めている。「自身で考えたことから導き出す」という段階が辿れるように時間を確保すること、学生の主体性を促し、「討議」できるような共同学習のあり方、及びそれに結び付くような学習教材、また学習課題の提示等、一連の課題について検討を加えていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目は2年次の前期科目である「成人看護学概論」を基盤に系統別看護学として発展したものである。既習の疾病学や形態機能学などを実践応用し成人の慢性病を持つ人とその家族のQOL向上に向けた看護活動を実践するための科目である。対象の個性を理解し健康支援に求められる看護の方向性を見出すためには基盤となる知識と看護実践能力が必要とされる。中でも「アセスメント」として思考・判断力が求められるため、実践に向けた主体的学習姿勢が継続的できるように、時間確保と、授業の展開(構築)について再考し、改善を図りたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	高橋 甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
成人急性期看護方法論	2	後期	必修	はい	95

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は、「看護実践の応用・展開」に位置し、急性期看護の特徴と定義・概念・理論について理解し、急性期にある対象の特徴、疾患や治療およびその看護について学ぶ科目である。特に周術期看護を中心に構成され、3年次開講の成人看護学演習や成人急性期看護学実習に繋がる科目である。学生の受講動機をみると、「必修科目である」100%、「資格取得に必要なものである」33.3%、「関心のある内容である」15.6%であった。</p> <p>②本科目は、形態機能学、疾病各論、臨床検査など既習の科目と関連するため、学生が想起することができるように質問をしながら講義展開を行っている。</p> <p>③事例を用いて、講義展開を取り入れており、手術により切除することでおこる機能障害の理解および看護を思考するように組み立てている。</p> <p>③講義では、周術期の看護をイメージさせるために、手術室のDVDや呼吸訓練器具、ドレーンなど臨床で使用しているものを用いて学生が理解できるように工夫を加えた。特に3年次の演習での利活用を意識して、栄養評価、水分出入バランスの計算や簡単な事例で看護展開を一部取り入れ、思考するような展開とした。</p> <p>④2名の教員がオムニバスで展開を行っており、それぞれが課題を提示して学生の理解を深めるように努めている。今回、課題内容を3年次前期の「成人看護学演習」および後期の「成人急性期看護学実習」に活用できるような課題とした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目の登録者は94名であった。成績の平均値は、74.6 (±11.2) 昨年度とほぼ変わらない結果であった。本試の判定では、A判定 (90+) 7名 (昨年度27名)、B判定 (80-89) 30名 (34名) と昨年度に比べて秀の学生が減少した。C判定 (70-79) 36名、D判定 (60-69) 14名、E判定 (59-) 6名で、放棄が1名であった。3名は再試験にて履修した。標準的レベル (70点以上) に達した学生は77.7 (昨年度79.1%)、理想的レベルに達した学生は39.4% (昨年度57.0%) であった。</p> <p>②DP観点別の成績は、DP1-2 (知識理解) は29.6/40点で得点率73.9 (昨年73.9%)、DP2-1 (思考判断) は、36.0/55点で65.4% (昨年度64.3%)、DP3-1 (関心意欲) は4.5/5点 (0-5点) で83.1 (昨年度90.1%) であった。学生は事例をもとに判断をする問いに対しての正答率が悪く、知識を応用して思考するのは難しいようである。</p> <p>③学生の「到達度自己評価」の平均値は4.1 (3.9-4.3) であった。「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」4.3、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」4.2であった。「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」3.9ともっとも低かった。</p> <p>④授業の質評価の平均値は4.1 (4.2-3.9) であった。</p> <p>⑤学習量の評価は、1回30分以上の予習・復習をした学生が、66.6% (昨年度61.7%)・68.9% (昨年度79%) であった。自由記述から、授業以外の課題以外に具体的に取り組んだ学習は、「復習した」「分からないことを調べた」と自主的に学習する学生もいた。</p> <p>⑥図書館の図書・雑誌利用率は、48.9% (昨年度70.3%)、学術データベース利用率55.6% (昨年度54.3%)、インターネット利用率80.0% (昨年度91.4%) で昨年度よりも図書館等の利用率が低下していた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性
本科目は、「看護実践の応用・展開」に位置し、急性期看護の特徴と定義・概念・理論について理解し、急性期にある対象の特徴、疾患や治療およびその看護について学ぶ科目である。特に周術期看護を中心に構成され、3年次開講の成人看護学演習や成人急性期看護学実習に繋がる講義内容を含んでおり科目の位置づけとして内容は妥当であると考えます。

②DP、行動目標からみての内容的妥当性
評価点、観点別学習達成度（知識理解、意欲関心、態度、技能表現）及び学生の到達度自己評価などから、科目内容は妥当であると考えます。

③まとめ
以上より本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①学習達成度、到達度自己評価、授業の質評価の結果より、授業工夫の一定の成果が認められた。次年度も今年度の授業内容を基盤に学生の意見などをともに検討を加える。

②既習の知識に戻りながら講義展開を行っている。事例の展開を取り入れ、知識の活用を体験しながら学べるようにしているが、今後の課題として検討していきたい。

③来年度より、知識確認試験が実施されるため、夏季休暇における実習課題を本科目にて実施する必要がある。内容について検討していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目は、「看護実践の応用・展開」に位置し、急性期看護の特徴と定義・概念・理論について理解し、急性期にある対象の特徴、疾患や治療およびその看護について学ぶ科目である。特に周術期看護を中心に構成され、その後の成人看護学演習や成人急性期看護学実習に繋がる科目である。急性期、特に周術期の看護について、系統別に講義展開をしている。そのため、範囲が広く、内容も難しいと考えられる。今後とも既習の知識を想起させながら、周術期の看護の理解を深めるためにDVDや事例を用いながら学生がイメージできるように工夫していきたい。さらに3年次の演習や実習に応用できることを意識した課題提示を工夫していきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	溝部 昌子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
老年看護方法論	2	後期	必修	いいえ	94

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>・老年看護方法論は、一般高齢者の加齢や、健康障害のある高齢者の看護に焦点を当てており、看護の対象としての高齢者を幅広く捉える視点とスキルを習得する必要がある。</p> <p>・ゴードンの機能的パターン、健康知覚、栄養、排泄、活動運動、睡眠、認知知覚…という枠組みに沿って、加齢性の変化と生活機能の低下、アセスメント技術と基本的援助技術を講義し、老年看護実践及び実習で取り扱う老年看護問題に関する課題提出8回が主な学修内容である。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>・最終評価は79.4点、秀4名、優47名、良35名、可3名、不可3名であった。課題の取り組みは都度評価できるものであったが、定期試験では課題の成果が反映されていない傾向があり、記述の表現が曖昧で具体的なものではなかった。</p> <p>・授業評価の回答者が35人と少なく、普段の振り返りフォームからの情報に比べ活用できるものがない。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

- ・各単元での情報提供、講義から課題作成に至る過程で、知識、思考は鍛錬されており、DPに対して妥当である。
- ・関心や態度については、高齢者の健康障害や暮らしへの影響、看護師としての関わりが様々な課題に表現されていることが確認できた。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

- ・それぞれの講義での情報提供量が過多だったかも知れず、実際の医療現場で必要となる知識と、学生が興味関心を高めて主体的に学修する水準にはギャップが有ると感じる。
- ・グラフィックレコーディングで提出を求めた課題についてはどの学生も大変熱心に取り組んでおり、学生が高齢者を大切に思う態度が示されていた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

- ・知識の定着が充分でないのか、表現力が充分でないのか判然とはしないが、看護実践、看護実習に当たっては十分には達成されていないと判断する。
- ・グラフィックレコーディングや高齢者疑似体験など、体感しやすい教材を老年看護学関連科目それぞれに準備して、知識の定着を図りたいと考える。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	前田 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
精神看護学概論	2	後期	必修	いいえ	96

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は必修科目である。受講動機は「必修科目である」が98.1%（昨年度96.8%）、次に「資格取得に必要である」が19.2%（昨年度38.7%）となっている。「関心のある内容である」は13.5%（昨年度24.2%）であった。「単位数を確保する」は11.5%（昨年度17.7%）であった。昨年度と比較すると「関心のある内容である」が低くなっているが、理由は不明である。授業内で精神看護に関心を向けて受講できるようにメンタルヘルスに関する身近な話題やDVDの視聴などを取り入れ、授業への関心が高められるように工夫した。</p> <p>②本科目は、心の健康を保持・増進するための援助法の基礎科目である。精神看護は、人との関わりがケアの基本となることを理解し、精神的援助のあり方を強調した。</p> <p>③能動的な学習を促すために、「発達段階と危機」の講義後に「ライフサイクルの危機とその支援」というテーマでレポートを作成させ、自らの危機と支援された状況について振り返らせ、こころの発達について理解を図った。</p> <p>④国家試験対策の一環として、国家試験問題の解説を課題にした。</p> <p>⑤授業・試験も対面で実施でき、新型コロナウイルス感染症の影響による支障は概ねなかった。欠席者については補講を実施し内容の理解に努めた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は68.4点であった。昨年度は68.8点であり、試験の難易度は同程度なので理解度は変わっていないか低下している可能性もある。再試対象は14名で、昨年度4名より増加している。54.8%が標準的レベルに達し、理想的レベル（概ね80点以上を目標）に達したものは28.5%であった。成績の内訳は、A（秀）が1.1%、B（優）が27.4%、C（良）が26.3%、D（可）が29.5%、不可が14.7%であった。学生の到達度自己評価は、3.4～4.3（平均4.0）で概ね肯定的な評価であった。そのうち知識・理解における自己評価は4.3、思考・判断に関する項目も4.2であった。レポート提出など課題に対してほとんどの学生が提出している点はよかった。図書館の利用率は58%で、昨年の100%と比較すると利用率が悪いという結果であったが課題提出のために図書館利用は必要なのでもっと利用しているものと思われる。課題で忙しいという自由記述がある反面、授業の予習・復習を全くしない学生が45%近くいるので、学習の習慣化が問題となる学生が多いと考えられ対策が必要である。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門科目」であり、必修科目である。精神看護学概論は、看護師として必要な精神看護全般に必要な知識と、精神看護方法論につなげる基礎的な知識を網羅している重要な科目である。国家試験に頻出する箇所も多いのであるが、精神科の専門用語の理解が学生にとって難しいイメージがある。しかし、本科目の単位習得は、臨地実習に参加できる要件になっているため、学生はまじめに取り組んでいる。国家試験を意識した授業になるため、課題は多いが学生も応えており、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えます。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から85.2%の学生が合格レベルに達している。レポートの提出物の内容や、授業毎の質問・感想カードの内容を省みると学生は真面目に授業に参加していた。本科目の性質上、理解しづらいところは否めないが、レポート課題を課したことで、学生の理解は進んだと思われることから、内容的には妥当であったと考えます。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価の平均は3.92であった。「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.1で他の項目より低い値であったが、コロナ禍による感染防止の影響もあると思われる。学生の学習量は多いとは言えず、全く予習復習をしていない学生が44%存在するのは問題である。学生の意見として、「他教科を含め課題の量が多く、時間に余裕がない」「課題で精いっぱい」という意見が出ており、他の科目の課題も重なっているためだと思われる。課題はしているが、課題以外の学習時間を確保できている学生は多いとは言えないが、レポート提出期限がよく守られておりその点はよかった。課題のためだけではない、積極的な学美を身につけることが課題と考える。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は、2年生前期の精神疾患の専門知識を学んだうえで、精神保健と精神看護全般の基礎を学ぶ科目である。基礎知識の形成についてはおおむね達成できたと思われる。精神症状のイメージがしづらいことや、専門用語が難解であり、学生にとって理解しづらい科目であったかもしれない。できるだけ精神疾患を持つ人やその家族の状況が想像できるように、書籍を読み感想を書くことを取り入れた。最初は理解しづらいようであったが、回数を重ねるごとに心情の理解が進んだように思う。今後も事例を多く取り入れることや、ディスカッションする時間を増やすなどで思考する時間を増やしていきたい。精神看護学概論の基礎知識から、精神疾患を持つ人の看護の基本につながっていくため精神科看護に興味関心が高まるような授業内容の検討・改善を行いたい。コロナ前は学生の私語が多かったが全員がマスクを着用していたので改善されてよかった。学生は主体的学習態度で授業に参加してほしい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	前田 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
精神看護方法論	2	後期	必修	いいえ	96

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は必修科目である。受講動機は「必修科目である」が100%（昨年度98.4%）、次に「資格取得に必要である」が29.2%（昨年度49.2%）となっている。「関心のある内容である」は10.4%（昨年度33.3%）であった。関心度は昨年と比較し下降している。授業内で精神科看護に関心を向けて受講できるように、書籍を読んでもらっているがさらに身近な話題などで関心を深めていく必要がある。しかし、本科目は実習に出るための必須科目であるため学生はそれなりの準備性は持って受講していると思われる。</p> <p>②本科目は、精神看護学概論で学んだ基礎知識を活用しながら、精神の健康の維持および精神疾患からの回復を援助するための原理と方法を強調した。</p> <p>③精神障害は、イメージがしにくいいため視聴覚教材を活用することで理解が図られる。精神疾患の教材DVDは、マイナスのイメージが強調され学生に無駄に恐怖心を与えるため使用せず、テレビやインターネットの動画などで、精神疾患を持つ人の健康な面が理解できるようなものを選んで視聴させた。また、実習における看護学生と患者との良好なかかわりの具体例を示し、ポジティブなイメージをもつように心がけた。</p> <p>④国家試験対策を意識したノート整理の課題を出し、基礎的な知識を確実にするように努めた。課題として国家試験問題を解かせ、解説を記述させた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	

<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は70.86点であり、昨年より7.34ポイント下降しており、再試対象は昨年は3名であったが今年度は12名であった。59%が標準的レベルに達し、理想的レベル（概ね80点以上を目標）に達したものは25.3%であった。成績の内訳は、A（秀）が4.2%、B（優）が21.1%、C（良）が33.7%、D（可）が27.4%、不可が12.6%であった。昨年に比べると、B（優）の割合が減少し、C（良）および不可が増えている。</p> <p>学生の到達度自己評価の平均は4.05で高い反面、成績は芳しくない結果であった。学習量は、30分以上の予習・復習をしていないと答えている学生が37%存在するが、レポート提出など課題に対してほとんどの学生がやっていた。しかし、内容が不足している学生もおり、指導を要した。精神関連の書籍を読む課題を出していたので、図書館の利用は79%であった。これを機にもっと図書館を活用してほしい。国家試験に関する課題を組み入れ、ポートフォリオで整理させたことは試験対策に役立ったのではないかと考える。</p>
--	---

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門科目」であり、必修科目である。精神看護学方法論は、精神科看護の展開において必要な知識と、3年生の精神看護学演習および精神看護学実習につなげる基礎的な知識を網羅している重要な科目である。国家試験に頻出する箇所も多いのであるが、精神疾患を持つ患者の理解が学生にとって難しいようである。しかし、本科目の単位習得は、臨地実習に参加できる要件になっているため、学生はまじめに学習に取り組んでいる。国家試験および実習を意識した授業になるため、課題は多いが学生も応えており、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考える。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からは、87.3%の学生が目標を達成した。レポートの提出物の内容や、授業毎の質問・感想カードの内容を省みると学生は真面目に授業に参加していたと推測する。本科目の性質上、理解しづらいところは否めないが、レポート課題を課したことで、学生の理解は進んだと思われることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>精神看護学概論では何をしようかわからないと言う学生の意見もあったが、方法論では、学習の進め方が具体的に、ノートまとめや疾病学の学習、教科書をよく読むなど、学習に対する姿勢が能動的な方向へ変化してきた。レポート提出期限は全体的に守られていたが、内容が希薄なものもあったので指導を行った。</p> <p>30分以上の予習・復習をしていないと答えている学生が30%程度存在するため学習習慣が身につけていないと考える。全体的に学習量は多いとは言えず、更なる主体的な学習を期待する。授業以外の学習に取り組んでいない理由として、「忙しい」「時間がない」「何をすればいいかわからない」という意見が出ているが、個人差があると考え。授業以外に学習に取り組んだ学生は、「教科書をしっかり読む、調べる」などできている。レポート提出期限がよく守られておりその点はよかった。日常の学習習慣を全員が身につけることが課題と考える。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>本科目は、2年生前期の精神疾患の専門知識と、精神看護学概論の基礎知識から、精神疾患を持つ人の看護の基本を学ぶ科目である。本科目の知識は、3年生の演習、実習の基本になるため、精神科看護に必要な基礎知識の理解、思考の理解が望まれる。近年のストレス社会において、精神疾患を持つ人が増えており、教授すべき内容も増えた。知識が十分ではない学生、思考の整理が不十分な学生も多々存在するため、3年時の精神看護学演習でそれらを補えるようにしなくてはならない。国家試験を意識させた方が学生も真剣に取り組む傾向にあるが、知識に偏ることなく、精神障害を持つ人の気持ちに寄り添い、看護の応用・展開につながるようにしなくてはならないと考える。学習の基本が身につけていない学生に対して教科書をよく読む、自分でノート整理を行うなど基本が必要と考え、課題として実施したが困難な学生も数名いる。学習の習慣がついておらず、勉強の仕方がわからない学生が増えている印象がある。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	隅田 由加里

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護マネジメント総論	2	後期	必修	いいえ	96

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>学生がこの科目以前に履修した看護専門科目は、「患者と看護師」という1対1の援助的人間関係を軸に展開されることが殆どである。しかし看護マネジメント総論は、「組織全体」が医療・看護という無形サービスを患者に効果的・効率的に提供し、質の高い医療を継続していくための基本的知識を学修する科目である。よって、本授業では、この「患者と看護師」という関係性から一旦離れ、「全ての看護師が統一した質の高い看護を提供できるための組織枠組み」を軸に授業を展開し、他の科目との差別化を図ることで学生の理解を促進することを1つの重点としている。</p> <p>また学生は本来なら早期看護実習、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱで病院実習を経験し、そこで医療や看護が臨床現場でどのように実践されているかを学ぶ機会を得る。しかしCOVID-19の影響で、ほとんどの学生に臨地実習経験がなく、病院組織をイメージすることは困難な状況であると判断した。このため、厚生労働省や日本看護協会出典の図・表を活用するとともに、学生が最もイメージしやすい「医療安全管理（事故防止）」を事例にとりあげ、病院組織の概要やその役割、そしてこのような組織の中での看護職の役割へと授業を展開し、看護マネジメントの基礎知識の修得を図った。</p> <p>さらに看護マネジメントによって質の高い医療・看護が成立するためには、組織の枠組みだけでなく、そこで働く人々の人間関係の構築やコミュニケーション能力が必須であることにも重きを置き、多職種連携・協働の理解促進に努めた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の達成度評価は、試験65%、レポート30%、貢献度5%による総合評価としている。最終成績の平均値は72.40±10.26点（最高92点、最低40点）で昨年度の結果（75±11）よりも低下した。成績の内訳も、秀4名(4%)、優20名(20%)、良44名(44.9%)、可24名(24%)、不可2名(2%)で、昨年度と比較しても、秀・優の学生数が減少し、再試験者は昨年は6名、今年度は8名と増え、2名は再履修と判断される結果となった。</p> <p>次に思考判断を問うレポート課題に関しては、3テーマの小レポートの評価に切り換え、評価指標は事前に提示し自己評価が可能な環境をもうけた。それによってレポートの平均点は昨年度21.2点が、今年度は23.9点と上昇した。しかし定期試験による知識修得に関しては、100点換算において、昨年は平均75点、今年度は67点であったことが本結果に影響したと考える。</p> <p>しかし日々の授業に関しては、出席確認フォームに全学生が本日の学びを記述し、さらに1割程度の学生は質問を記述するなど、授業には真剣に向き合っていたと考える。また回答した学生の3割は図書館を利用し、インターネット等の活用は7割の学生が行っており、半数の学生は予習・復習を行っている。</p> <p>学生による到達度自己評価においても、平均値は4.0～4.4で、特に「(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた(4.4)」「(3)事象を理解する視点や考え方を得ることができた(4.4)」「(4)自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた(4.4)」「(5)自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた(4.4)」「(9)職業倫理や行動規範(守るべきルールなど)について学ぶことができた(4.4)」の学生の達成感覚は高かった。以上より全体を通してと知識理解は「やや達成」と判断したが、「思考判断」「意欲関心」「態度」は達成と評価した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目はカリキュラムマップ上、基礎看護学領域の履修が終了し、各看護学領域の概論・方法論履修開始前後の2年次後期に行われる。3年次の各論実習を鑑み、この時期に組織による質の高い看護や多職種連携・協働を思考する看護マネジメント総論を履修することは、科目の位置づけとしては妥当と考える。</p> <p>学修目標はDPに則って、「1. 看護職が看護活動を通して人々の健康や幸福に効果的・効率的・創造的に貢献できるための、看護マネジメントの基本的な考え方を身につけることができる。」「2. 看護マネジメントの基本を学ぶなかで、ヒト・モノ・カネ・時間・情報という資源を活用し、効果的・効率的に看護をマネジメントするための思考力を高めることができる。」「3. 医療・看護の質の維持・向上のためには、多様性を踏まえた多職種との連携・協働のしくみづくりが必須であることを理解し、まずはグループメンバーで協力し課題を解決することができる。」「4. 組織の中の自分という意識を持ち、責任感と倫理感に基づいたセルフマネジメントを行うことができる。」を掲げ、授業の構築を行った。</p> <p>本科目の達成度の自己評価は全て4. 1以上であり、「とてもわかりやすかった」という自由記載からも、専門科目として基礎的知識の定着面、思考面において、ある一定の内容の妥当性は保証できたと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>フォームを活用し学生の学びや疑問を抽出し、必要時は学生とメールや対面を通して疑問に答え、また共有すべき質問内容や学びは授業の中でフィードバックする時間を設けるようにした。これは今後も継続していきたいと考える。学生の自由コメントにも「授業がわかりやすかった」があり、学生の理解に貢献できたと判断する。授業の質評価においても評価指標の平均値は4.1~4. 5前後であり高評価であった。これは、上記のような質問への対応に加え、国の政策等や看護マネジメント、診療報酬等の理解ができるよう、テキストだけでなく、厚生労働省等の資料等や動画や思考力を高める道具を活用するなどの工夫を行った結果と考える。次年度もこのように少しでも学生が理解できる工夫を継続しながら、質の高い医療を提供する方略を学生が思考できるよう支援していきたいと考える</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目を学生が学ぶにあたり、COVID-19の影響で臨地実習経験が殆どなく、病院組織をイメージすることが困難な学生に配慮し、厚生労働省等の図・表、具体事例、動画等を多く活用し、またフォームを活用して学生の感想や本日の学び、質問の記述を行わせることで、学生が学びを整理できるよう工夫を行いながら進めた。しかし結果としては、成績の平均値は72.40±10.26点と、昨年度より低下した。しかし、思考を問うレポートでは自身の考えをエビデンスを活用してまとめることができ、フォームでの学びは全学生が記述し、1割程度の学生は質問を記述してくるなどから、授業には真摯に向き合っていたと考える。学生による到達度自己評価においても平均値は4.1~4.5、授業の質評価の平均値も4.1~4.5と高値であり、回答者の3~7割は図書館やインターネットなどを活用して学修している。また学生の自由コメントにも「とても分かりやすく楽しい授業だった」とのコメントも認めている。以上より全般的な成績は昨年度よりもやや低下しているものの、思考や意欲等には効果を認めているため、ある一定の授業の質を担保することができ、シラバスにおける行動目標は概ね達成できたと判断する。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>看護総合実習の事前、事後の演習として位置づけられた演習科目である。前期に基本的知識の確認及び抄読会を実施し、実習テーマの設定、実習計画書の作成指導を行う。事後は、各自レポートの作成指導を行った。看護総合実習で計画した看護方法及び技術について、文献を引用して考察を行い、各自レポート作成を行うことができた。グループで協力し成果物を作成するようにし、グループへの貢献度を高めるよう工夫した。</p> <p>*受講動機：「必修科目である」77.8%、「資格取得」66.7%</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された		達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>*客観評価：DP2-1（平均84/100）、DP3-1（平均87/100）、DP3-2（平均91/100）、DP4-2（平均100/100）、DP4-3（平均100/100）。</p> <p>*達成度自己評価：「自分なりの目標を達成した」（平均4.0、中央4.0）、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（平均4.4、中央5.0）、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた。」（平均4.2、中央50.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討することができた」（平均4.4、中央5.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野について、的確に判断する力を得ることができた」（平均4.3、中央4.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（平均4.8、中央5.0）「自分が学ぼうとしている分野で必要となる技術を身に付けることができた」（平均4.8、中央5.0）、「コミュニケーションや表現力を高めることができた」（平均4.2、中央4.0）、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（平均4.43、中央4.0）、「職業選択の参考になった」、（平均4.2、中央4.0）。</p> <p>*図書館やインターネットの利用状況では、「図書館の図書、雑誌を利用した」100%、「インターネットやHP」100%</p> <p>*学習量の評価：1回30分以上の予習復習 6回100%</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>*受講動機は「必修科目である」77.8%、「資格取得に必要である」66.7%であった。</p> <p>*達成度自己評価：「自分なりの目標を達成した」（平均4.0、中央4.0）、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（平均4.4、中央5.0）、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた。」（平均4.2、中央5.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討することができた」（平均4.4、中央5.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野について、的確に判断する力を得ることができた」（平均4.3、中央4.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（平均4.8、中央5.0）「自分が学ぼうとしている分野で必要となる技術を身につけることができた」（平均4.8、中央5.0）、「コミュニケーションや表現力を高めることができた」（平均4.2、中央4.0）、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（平均4.43、中央4.0）、「職業選択の参考になった」、（平均4.2、中央4.0）。</p> <p>「受講動機」「学習到達度の自己評価」から、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみて内容的妥当性はあると考えられる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>*授業の質の評価では、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」（平均3.6、中央3.0）、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」（平均3.9、中央4.0）、「説明は理解しやすいものであった」（平均3.8、中央4.0）、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」（平均4.3、中央5.0）、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受けつけ、それに答える機会が作られていた。」（平均4.3、中央4.0）であった。</p> <p>*図書館やインターネットの利用状況：「図書館の図書、雑誌を利用した」100%、「学術データベースの活用」100%、「インターネットやHP」100%</p> <p>*学習量の評価：1回30分以上の予習復習 6回100%</p> <p>*自由記載：「単位換算など、しっかり計算してほしい。」</p> <p>→今年度は、演習開始後に実習施設側の諸事情により、看護総合実習の日程が変更され、それに伴い、急遽科目履修者を2グループに分けて演習を進めることになった。本科目の授業計画の変更を余儀なくされ、授業回数の確認が不十分だったため、1グループの授業回数が多くなってしまい、単位換算について意見が出された。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>客観評価および到達度自己評価より、受講者全員が科目の到達目標を達成した。</p> <p>実習施設の指導者からは、今年度も履修者の成果発表について、また実習意欲、態度への高評価をいただくことができ、学内での演習の準備が看護総合実習に生かされたようである。授業中には学生が参加する機会を多く取り入れ、学生主体に教員との意見交換の場を増やした。その成果は、授業の質評価にも反映されていた。しかし、レポートの評価基準や課題の範囲の説明が不足していた点は改善が必要である。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	鹿毛 美香

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、看護学科専門教科科目のうち「看護実践の応用」として置かれている各看護学領域の講義・演習・実習終了後に受講する「看護実践の統合」科目として、また「看護総合実習」の看護総合実習の事前事後演習として位置づけられている。そのため、既習の知識や看護実践の中から学生自らが疑問を持ち、それを実践的に解決し、考察することが求められる。今年度は、看護総合実習の事前8コマ、事後7コマで構成し、事前は文献レビューから実習計画立案までをグループ学習を活用、事後は個別課題として実習での結果をもとに論文形式のレポート作成へと展開している。</p> <p>学生の受講動機は、「必修科目である」が100.0%、ついで「資格取得に必要」が50.0%であり、受講動機の多くは受動的なものであることが示された。そのため、この科目でどのような能力を養い、それが看護職に求められるものであることを具体的な例示をあげ説明し、学生自身が興味関心をもち疑問として提示してきたものについては、なるべく実習現場で実践できるようにする等を試みた。</p> <p>この科目は、演習科目として学生が思考を深めることにも重点を置いているため、文献レビューなどは基本個人ワークとし、それを抄読会形式のグループ学習を取り入れ、他学生との議論の中で学生個々人の思考発展を促した。また、毎回授業時は、個人ワーク→グループ学習→個人ワークで展開することで、個々の学修状況を確認するようにした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された					
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は、85.12(±3.63)点であった。GPAの理想的レベル（成績「優」・「秀」レベルとする）に到達した学生は100.0%であり、概ね優秀な成績を収めている。</p> <p>DPの目標別達成率としては、DP2「思考・判断」85.25%、DP3「意欲関心」89.98%、DP4「態度」80.05%であった。思考判断では、与えられた課題を解決する際に学習の中で得た知識を活用し、応用していくことが必要であるが、その点の習得は図られたが、そこに至るまでの態度面（自律性や研鑽力）が十分ではなかったことが示された。加えて、「学生の到達度自己評価」において『自分なりの目標を達成した』が平均値4.3と低かったことは、学生が自身の学修スピードを客観的に捉えられておらず、提出等の期限を調整することが多々あったためと考えられる。しかし、学生の成績およびDPの目標別達成率からみると、学生は、概ねこの科目の目標に達成していると考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、看護学科専門教科科目のうち「看護実践の応用」として置かれている各看護学領域の講義・演習・実習終了後に受講する「看護実践の統合」科目として、また「看護総合実習」の看護総合実習の事前事後演習として位置づけられていたため、「必修科目」または「資格取得」に必要であると認識し、学生は受講している。授業内容としては、学生自らが疑問を持った事象から考察することを求め、今年度は、看護総合実習の事前8コマ、事後7コマで構成し、事前は文献レビューから実習計画立案までをグループ学習を活用し、事後は個別課題として実習での結果をもとに論文形式のレポート作成へと展開した。その結果、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えます。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からみると平均値は85点を超え、DP2「思考・判断」の到達率は85.25%、DP3「意欲関心」89.98%、DP4「態度」80.05%とすべてのDPにおいて達成率が80%を達しているため、内容的には妥当であると考えます。</p> <p>③まとめ 以上、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生の「到達度自己評価」の平均値は4.3~4.6、中央値は1項目で4.0、3項目で4.5、6項目で5.0であった。「学生の到達度自己評価」の平均点でもっとも高い項目は「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「職業選択の参考になった」の2項目で4.6、もっとも低い項目は「自分なりの目標を達成した」の4.3であった。</p> <p>学生による「授業の質評価」の平均値は4.6~4.8、中央値はすべて5.0と高い値であった。しかし、その中で平均値が低い項目は「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」「期間内に行う学習の範囲や課題は明らかであった」の4.6であった。</p> <p>学生の「到達度自己評価」、学生による「授業の質評価」の平均値が低い項目をみると、「期間内に行う学習の範囲や課題の明確性」という授業へ取り組む導入部分での工夫が十分でなかったと考えられる。昨年度に比べ評価基準等を説明したが学生の特性に合わせ、中間での再確認など、学生の理解を求めよう検討したい。また、今年度は、看護総合実習施設ごとに実習日時が異なっていたため、授業の日程については学生たちと協議し決定したが、履修者全員同日に学習する内容、実習グループ毎に学習する内容、個人で学習する内容を、前もって提示したため学生の学習準備状況も整えやすかったのではないかと考える。授業時間に限界もあるため学生個人々人へのフィードバックを通して、学生が納得をし課題に取り組める環境を作っていきたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>専門科目の最終段階である「看護実践の統合」科目にあたる本科目の位置づけから、学生自身で思考し、課題解決する「思考・判断」の面では概ね達成できたが、この科目に対する心構え、学習準備などの導入部分に課題を残した。この点は、導入が上手いかわないと学生の学修成果に影響が出る可能性があるため、授業展開を検討し、改善する予定である。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	大嶋 満須美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護学特論	4	後期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は4年生の選択科目であり、「看護実践の統合」の科目として位置づけられている。意図することは、専門職業人として自立を前提に、看護の将来展望について多角的な視点から問いかけ、そして現実課題に深く向き合うことにより、広い視野で考察できることである。授業では社会環境の変化と看護のあり様について考察し、各担当教員がそれぞれ専門性の観点から看護ニーズについて解説を行う。また、現代社会は「倫理的側面」がますます重要視され、その背景について教授することで、専門職業人として責務を自覚し、倫理観を育むことを重要視した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された			達成された	達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>履修生は7名で、1名の放棄者がいた。総合評価は平均点82.3点で全員が理想とするレベルに到達できた。受講動機は「単位数を確保する」と答えた学生は80.0%、「教員に勧められた」と答えた学生は20%であった。到達度自己評価は平均4.0、授業評価は平均4.1、また授業にはシラバスを参考にして臨んでいた。受講動機には国家試験対策の一環として受講している学生もいるが、課題に取り組み、図書を利用し情報検索を行っていたこと等から、主体的な学修行動がとれていたと言える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①DP上に位置づけ
看護学特論は、4年生後期の選択科目であり、看護実践の統合科目として位置づけられている。卒業を控えた学生が自己の将来展望を抱き、職業としての責務を自覚できる機会と考えている。一定の評価を得たことからDPにおいて問題ないと考える。

②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ
本科目は既習の学修を統合し、看護職として視野を広げるとともに現在の課題や将来展望について考察することにより、今後も看護を探究する姿勢を持ち合わせ、専門職業人として自立への動機づけを意図した科目である。履修者が少なかったものの、履修状況や成績評価、等概ね良好であったことからCP、カリキュラム上から内容的妥当性には問題はないと考える。

③まとめ
以上、位置づけから見た内容的妥当性については問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

この科目は看護の現状と課題を把握し、将来展望に向けた取り組みについて、学生が主体的に考察できることを一つの目標にしている。そのため、看護の専門領域を超えた統合科目として各テーマごとに担当教員により授業が進められる。学生の興味・関心や意欲に対し、学生個々の質問に答え、理解と問題解決に向けた助言などを行った。学生の関心と主体性に対して、学生同士がディスカッションでき、方向性が導き出せるような時間の確保について検討する必要がある。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目は「看護実践の統合」の科目であり、4年生の選択科目である。学生自身の将来展望を見据え、社会の変化と看護のあり様についても考察することが出来た。担当教員がそれぞれ専門性の観点から解説を行い、本年度は「倫理的側面」についても問うことができ、到達度において目的は到達できた。次年度は履修生の増加を図ることが一つの課題である。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	雪松 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
NPO論	4	後期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>4年生の国試前での授業であることから、看護師や保健師として働く際に必要になる事例や考えを身に付け、国試やこれからの自分のためになると考え、取り組んでもらえることに重点を置きました。実習前に受けたかったという声が出たことにもありましたが、実習を受けた後だからこそ理解できるものもあると捉え、実習現場とつなげて考える時間をとるなど工夫をしました。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された	達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。						
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						
	<p>どの項目も学科別集計の値と同等もしくはそれよりも高く、国試に直結しないがこの授業での内容を専門知識として習得し意欲をもって取り組むことができていたことが到達度自己評価などからわかったため達成との評価としました。授業の中でも自分の考えを経験から探し、丁寧に表現する姿勢も見られたため、学びの相乗効果が得られたと考えます。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

CPカリキュラム上の位置付けからみた内容的妥当性：国家試験前という時期について例年疑問の声が学生からあがるため、第一回目の授業でより丁寧に説明をしました。その影響か、納得して取り組んでいたように見受けられました。

DP1の看護実践に必要な基本的な知識については、保健師や看護師の現場での個人との関わりを具体的にイメージできるよう実際にあった事件を取り上げてグループで考えるワークを設定し、達成に努めました。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の内容として正解が一つでないものも多いため、事例などの事実と主観について、より丁寧に区別することに努めます。予習など授業以外の学習時間も適しているようなのでその点については継続していきます。配布資料の活用も学生自ら考え取り組む様子がみられ、授業資料が適していたことも学習量評価から読み取れました。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

今年度は対面に切り替わり、グループワークなど相手の考えを聞き、違いを受け止めて自分の考ていくことの学びも深さがより大きいと感じました。講義とワークの関係性と組み立てを今後も状況を見ながら行います。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
災害看護学	4	前期	必修	いいえ	87

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>看護学科4年生後期の必修科目である。また、DP配分では意欲の配分割合が最も多い。既に、卒後の進路が内定している学生も多いため、各自が自らが看護職として災害看護にどう向き合おうとするのか、意欲を高めるよう実践的な授業内容を計画した。災害看護の実践経験をもつ看護師・保健師を選出し、外部講師として招聘した。講義内容について、前年度の授業への感想をもとに、改善点を検討し本学学生の準備状況にあった内容になるよう努めた。また、看護師国家試験に近い4年次後期必修科目であるため、外部講師に国家試験出題基準を提示し授業計画に活かしていただけるようにした。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>*客観評価：DP1 (100%)、DP2 (82%)、DP3 (平均79%) DP4 (平均95%) であった。</p> <p>*達成度自己評価：「自分なりの目標を達成した」（平均3.9、中央4.0）、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（平均4.2、中央4.0）、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた。」（平均4.1、中央4.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討することができた」（平均4.1、中央4.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野について、的確に判断する力を得ることができた」（平均3.9、中央4.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（平均4.0、中央4.0）「自分が学ぼうとしている分野で必要となる技術を身につけることができた」（平均3.9、中央5.0）、「コミュニケーションや表現力を高めることができた」（平均3.4、中央3.0）、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（平均3.9、中央4.0）、「職業選択の参考になった」、（平均3.9、中央4.0）。</p> <p>*図書館やインターネットの利用状況：「図書館の図書、雑誌を利用した」15%、「学術データベースの活用」5.4%、「インターネットやHPの検索、利用」43%</p> <p>*学習量の評価：「30分以上の予習または復習を行った」について、3回9%、2回24%、1回74%、0回55%</p> <p>*授業の課題以外に学習に取り組んだと回答した者は64%</p> <p>自由記載：授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由：「授業で理解できた9名」、授業以外の課題に具体的に取り組んだ学習「国試対策問題54名」</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>*「受講動機」：「必修科目である 87名100%」、「資格や単位取得に必要である15名、17.2%」、「関心のある科目である7名8.0%）」、「単位数を確保する4名4.6%）」「GPAをあげる1名1.1%）」「友人が履修している2名2.3%）」</p> <p>*学習到達度は、4.（2）の通り、到達できたと考えられる。</p> <p>以上より、DP,CP,カリキュラムマップ上の本科目の位置づけは妥当である。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>*授業の質の評価では、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」（平均3.7、中央4.0）、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」（平均3.8、中央4.0）、「説明は理解しやすいものであった」（平均3.9、中央4.0）、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」（平均3.5、中央4.0）、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受けつけ、それに答える機会が作られていた。」（平均4.1、中央4.0）</p> <p>*図書館やインターネットの利用状況：「図書館の図書、雑誌を利用した」15%、「学術データベースの活用」5.4%、「インターネットやHPの検索、利用」43%</p> <p>*学習量の評価：「30分以上の予習または復習を行った」について、3回9%、2回24%、1回74%、0回55%</p> <p>自由記載：「災害支援ナースに教務を持った」「実際の現場に行って支援を行い、様々な体験をされてきた看護師さんそれぞれの意見をお聞きすることができ、とても有意義な授業だと思った。」「現場での災害看護の話聞いたことで、より具体的に災害現場における看護師の行動や求められる課題について考えることができた。」</p> <p>「レポートの提出期限や点数配分を誤ってアナウンスされたので少し戸惑った。」「来ていない学生がいるのに出席扱いするのが不平等で納得いかない。」</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>達成状況は、客観評価及び主観評価ともに到達できた。災害看護に関するより実践的な内容を計画し、卒業を直前に控えている時期でもあり、外部講師が担当した災害看護活動の講義は、学生の関心や将来の進路選択にも良い影響を与えたようである。</p> <p>前年度に課題としてあげていた<災害看護に求められる看護技術について卓上演習を実施>したこともあり、技術習得の自己評価達成状況は改善した。授業の出席確認はこれまでクラスルームへの出席確認フォームの提出をもって行っていたが、受講者から「来ていない学生が出席扱いになっている」との不満が提出されており、今後、出席確認の方法を改善したい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	溝部 昌子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
国際保健論	2	後期	選択	いいえ	57

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・選択科目であり、56名が履修登録した。看護師国家試験では、看護の統合と実践、目標III「国際社会における看護の基本的な理解を問う」において、A看護のグローバル化、B多様な文化と看護、C看護の国際協力活動が出題基準として位置づけられており、本来全ての学生が学ぶ必要がある。保健師や教職コースの学生が履修しにくい時間割になっているとすれば、機会損失であろうと考える。 ・国際社会に対する学生の興味や関心、経験は様々であり、初回授業では、海外での実習、看護、学習などの経験を伝えることと、学生の身近な”国際的なもの”について学生同士で意見交換し、記録を提出してもらい、教員も把握するようにしている。 ・学生がグローバル化や国際的な看護活動を実際に感じ取れるように、小倉第一病院で勤務するインドネシア人看護師2名を招聘し、母国を離れて日本で勤務するまでの過程や現在の状況を紹介してもらい、質疑応答の時間を長く設けた。また、米国カリフォルニアロングビーチメモリアル病院に勤務する日本人NPよりZoomでの講義して頂き、日本人が米国で働くこと、米国での看護について、比較文化的に学ぶ機会を設けた。 ・教材等の工夫は、例年通り、学生がイメージしやすい写真や、資料を用い、意見交換や、調べ学習などを取り入れ、課題として世界の衛生習慣やCLASグラフィックレコーディングを制作し、科目の評価対象とした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された		達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目の評価対象は、8回の提出と参加態度による。身近な国際問題、EPA看護師に対する質問や感想、日本人NPに対する質問や感想、医療における人種差別に関する論述、日米の看護師制度の違いの理解度チェック、世界の衛生習慣またはCLASに関するグラフィックレコーディング資料の作成など。平均85.5点、秀7名、優42名、良7名となった。 ・学生の提出課題は、講義時間内に取り組んだものと、それ以外の時間を使って自身で調べたり、準備、制作したものとがあり、相当の取り組みがあり、評価できるものとする。 ・授業評価データが19名のみであり、中庸な回答が多かった。普段振り返りフォームで得られる学生の反応や意見に比べて、授業評価から活かせるものがない。 					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

・学生は世界的な健康課題、医療制度の違い、医療における差別、看護師制度の違い、看護の違い、異なる文化的背景を持つ人の看護における配慮、言語的障壁のある人への看護、海外で働く人の挑戦や努力など、様々な今日的な話題に触れ、知識を得ており、看護師としての基盤の一部を形成し、将来の実践に意義があると思われ、DPに合致している。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

・ゲストスピーカー、4年生を含めて4人に登壇していただき、直接学生には刺激を与えていただいたと思うが、現在の学生とはかけ離れた存在であり、受け身で話を聞いている部分もあったと感じる。これらの調整に苦労が多かったので、学生が主体的に学べる別の方法を検討したい。

・外国人看護師や海外で活躍する日本人看護師の講義に対して、その努力を尊敬し、称えるような感想は多く書かれており、看護師に限らず様々な国際人に話題提供をしていただく、あるいは学生自ら話を聞きに行くなど、グローバル化に関する活動のバリエーションを増やしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

・次年度は、文化多様性が多く描かれた映画を教材として、比較文化論的解釈、また宗教的観念の理解のために聖地巡礼を取り上げ、調べてプレゼンテーションする学修活動を増やす予定としている。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	財津 倫子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
クリティカルケア看護学	4	前期	選択	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①特に人工呼吸器装着する患者の看護について、知識だけではなく、実体験を通して人工呼吸器を装着する患者の苦痛や看護の根拠について学ぶ機会となった。</p> <p>②救急・クリティカルな状態・状況における患者及び家族に対する倫理的課題や調整について、事例を提示し、グループワークを通して患者・家族・看護師の葛藤について考え、看護師としての行動について考える機会とした。</p> <p>③学生の受講動機では、17名の回答があり、「資格取得に必要である」が3名(17.6%)、「関心のある内容である」14名(82.4%)、「単位数を確保する」が2名(11.8%)、「友人が履修している」が1名(5.9%)、「教員に勧められた」4名(23.5%)、が動機になっていた。昨年に引き続き、関心のある内容であるとする受講者の割合が高かった。</p> <p>④外部講師の集中ケア認定看護師による演習を組み込んでおり、「この講義で実技を行うことができ、とても勉強になった。」「とても貴重な体験であった。」とする意見が多くあった。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された

<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生の授業評価アンケートの結果など, できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」, 「学習到達度の自己評価」, 「学習量の評価」, 「学修のための情報利用」, 「図書館, インターネット利用」, 自由記述の意見など</p>	<p>本科目の履修者は21名であった。最終的な成績の平均値は、86.4点(SD2.4)点であり、A判定(90+)3名、B判定(80-89)18名であり、全員理想的レベル(80点以上)であった。今回は、全員が理想的なレベルに到達することができた。</p> <p>DP別では、「知識理解」は、76.7%、「思考判断について」は74.8%、「関心意欲について」は99%、「態度について」は98.1%、「態度・根拠」は98.8%、「学び続ける姿勢」は91.4%であった。全体的に講義に対して、意欲関心はあり、真面目に取り組む姿勢がみられ、概ね目標はほぼ達成された。</p> <p>学生による授業評価においては、「到達度自己評価」をみると、平均値は4.4-4.5に推移しており、全ての項目において、全ての学生が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答していた。</p> <p>受講生や外部講師がコロナに感染し、急速日程調整等したが、講義時間内に集中して講義課題に取り組める授業構成のままできるように配慮し、学生は講義時間内に集中して学ぶことができていた。</p>
--	---

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
本科目は「看護の発展」の「看護キャリア形成と看護実践」に位置付けられ、内容的には妥当であると考ええる。

②DP、行動目標からみでの内容的妥当性
成績評価では「知識理解」78%、「思考判断について」76%、「関心意欲について」86%、「態度について」100%、「態度・根拠」90%、「学び続ける姿勢」81%であった。クリティカルな状態にある患者および家族の倫理的な問題は、クリティカルケア看護学において重要な課題である。平均点の86.4点からも考えても、内容的には妥当であったと考える。

③まとめ
以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価では、殆どの学生が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそう思う」に回答しており、平均値も4.2～4.4であった。個人ワークおよび発表の場を設けたことで、個人の学びを共有する機会と学生の質問に対応する機会となった。

昨年は、演習日以外の講義日は遠隔授業であり、図書館の利用がかなわず、図書館の利用は17%であったが、今年は、71%の学生が図書館を利用し、学びを深めることができていた。また、CiNiiや学術データベースを検索し、利用した学生は、41.1%、インターネットのホームページを検索利用したとする学生は、76.4%であった。最新の情報から学び、その情報をまとめようとする姿勢が感じられた。今後も、文献検索方法および文献検索の必要性を説明し、適切な文献を選ぶ力を修得させ、課題への内容の広がりや理解の深まりを支援していきたい。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

本科目は「看護の発展」の「看護キャリア形成と看護実践」に位置付けられる、4年次の選択科目である。

行動目標については、概ね達成できたと考える。

学生からの意見として、「演習時間内で十分理解できる」とする意見があった。今後も、演習時間内に集中して理解が深められる内容とし、興味関心が持てるような授業展開を続けていく。

講義内容としては、看護師国家試験出題基準を鑑み、選択科目ではあるが、次年度から、新しく講義に「救急領域における主要病態に対する救急処置とケア（外傷患者・熱傷・中毒患者）」を加え、クリティカル領域における救急処置の知識を提供する予定である。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護方法論 II	2	後期	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>保健師として地域全体を対象にした支援の姿勢や視点をもてるよう、学生に問いかけたり、話し合いのテーマを提示することを意識して授業を実施した。授業への質問や意見を確認し、次の授業でフィードバックすることや、授業後に短時間教室に残り、質問がある場合にはできるだけ対応するようにしている。授業準備では、授業前に前週のうちに次回の授業配布資料を配布し、他科目の自己学習と学習計画を調整しながら予習復習できるように配慮した。また、復習に活用し授業内容の理解を深められる動画サイトなどを準備し、授業時に紹介した。</p> <p>学修準備性では、学習量の評価をみると、図書館、インターネット利用については、24名(30名中)が利用していた。学習量では、「30分以上の準備」6回と回答した者が最も多く、9名(30名中)であった。課題以外の学習については、「授業でだされる課題が多く、授業以外の課題以外に取り組んでいない」と回答した学生が複数いた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された		達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>*学習到達度の自己評価: 「自分なりの目標を達成した」(平均4.1、中央4.0)、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(平均4.2、中央4.0)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(平均4.2、中央4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」(平均4.2、中央4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」(平均4.2、中央4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」(平均4.3、中央5.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(平均4.9、中央4.5)、「コミュニケーションや表現力を身に付けることができた」(平均4.2、中央4.0)、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(平均4.3、中央4.5)、「職業選択の参考になった」(平均4.3、中央5.0)</p> <p>*客観的評価: 思考判断 (DP2-2) 76%、課題発表を通しての意欲 (DP3)90%・態度 (DP4)95%であった。思考判断では、試験では基本的な知識、事例の情報収集及びアセスメント、地域の健康課題を解決するための地区活動、事業計画、施策化に関する判断を問うものであった。</p> <p>*図書館利用: 図書館、インターネット利用 19名/22名 (86%)。学習量の評価: 「30分以上」予習・・・4.5回4名/22名 (18%)、2.3回5名/22名 (23%)、1回6名/22名 (27%)、0回7名/22名 (32%) 復習・・・4.5回3名/22名 (14%)、2.3回3名/22名 (32%)、1回5名/22名 (23%)、0回7名/22名 (32%)</p> <p>*自由記載「授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」…課題を取り組むのに精一杯だった (6名)、「授業の課題以外に具体的に取り組んだ学修」…授業でわからなかったところを調べた3名、気になった地域の特性を調べた1名</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>*受講動機：「必修科目である」27.0%、「資格取得に必要である」63.6%、「関心のある科目である」13.6%、「単位数を確保する」40.9%、「GPAをあげる」13.6%</p> <p>*学習到達度の自己評価：「自分なりの目標を達成した」（平均4.1、中央4.0）、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（平均4.2、中央4.0）、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」（平均4.2、中央4.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」（平均4.2、中央4.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」（平均4.2、中央4.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」（平均4.3、中央5.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（平均4.9、中央4.5）、「コミュニケーションや表現力を身につけることができた」（平均4.2、中央4.0）、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（平均4.3、中央4.5）、「職業選択の参考になった」（平均4.3、中央5.0）</p> <p>以上より、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみて内容的妥当性はありと考えられる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>*授業の質評価：「テスト、レポート、提出物の評価基準は明らかであった(平均値4.4、中央値5.0)」、「期間内に行うべき学生位の範囲や課題は明らかであった(平均値4.5、中央値5.0)」、「説明は理解しやすいものであった(平均値4.0、中央値4.0)」、「授業内に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた(平均値4.3、中央値4.0)」、「口頭、文書など何らかの形で学生の質問を受けつけ、それに応える機会が作られていた(平均値4.1、中央値4.0)」</p> <p>*学習量の評価：1回30分以上の予習回数…6回0名、4.5回4名、2.3回5名、1回6名、0回7名、1回30分以上の復習回数…6回0名、4.5回3名、2.3回7名、1回5名、0回7名</p> <p>*授業の記録：配布資料に記載11名/22名50%</p> <p>*学修のための情報活用：シラバスの記載を活用した者11名(50%)、あらかじめ授業計画を立てた者12名(60%)</p> <p>*図書館、インターネット利用：図書館の図書、雑誌の活用4名(19%)、学術データベースの活用3名(14%)、インターネットの活用19名(95%)</p> <p>*自由記載：「内容がわかりづらかった1名」</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>知識理解(DP1)、思考判断(DP2)、意欲(DP4)はいずれも到達目標を達成した。達成度自己評価でも、到達度自己目標はほぼ肯定的評価であった。客観評価、主観評価の結果から、学習目標は達成したと考えられる。</p> <p>授業の後半では、地域診断の導入部分の演習を実施している。グループで授業への参加状況に学生間の差がみられたため、途中から個人ワークに切り替えて進めた。しかし、授業で必ず必要な政府統計情報の検索など、インターネット活用状況への回答では、0回と回答した者がおり、自己学修に取り組めなかった者がいることが明らかになった。課題は学生個々の課題学習状況を確認し授業を進めることである。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
対象別公衆衛生看護活動論II	2	後期	選択	いいえ	39

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は看護師課程は選択、保健師課程は必修の科目である。保健師課程の選抜試験が2年前期終了時に実施されることから、受講動機として「資格取得に必要である」が63.6%（昨年度62.5%）と最も多かった。「関心のある内容である」を受講動機にしてくれた学生13.6%(昨年53%)が少なかったことは残念だが、選択したこと自体が意欲ある学生であると考え。公衆衛生看護学は保健師だけではなく、現在は病院の看護職にも必要となる知識である。今後も、より多くの看護師課程の学生に履修していただきたいと願っている。</p> <p>テキストは、前期の「対象別公衆衛生看護活動論I」を引き続き使用し、授業はテキストに沿って進行するが、講義資料はオリジナルプリントとスライドで解説した。そして、プリントやスライドには教科書のページ数を記載した。これは、テキストは自己の予習・復習に使い、講義ではテキストの内容を補足するものや問題提起をするものを提示する意図がある。学生の中には、保健師課程を希望する意欲的な人と、単位数を確保するための受講の人がおり、授業に対する準備性は二分していた。本科目は、保健師国家試験に直接関係することから、難易度や専門性が高い講義であるが、全員が最後まで履修した努力を賞賛したい。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された	達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>講義期間の途中で提出を課した学習成果物にはかなりの差があり、提出後に解説を行ったものの、個人個人が修正されたかどうか、教える側としても心配であった。しかし、授業評価アンケートの到達度自己評価の結果ではすべて高得点であり、特に、「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた」「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」「職業選択の参考になった」の4項目については、半数以上の学生が「かなりそうだと思う」を選択していた。保健師という資格と活動を理解していただけたと推測する。</p> <p>最終的な成績は、平均点76.0点（昨年72.8点）であった。成績の内訳は、秀0名（昨年1名）、優17名（昨年5名）、良14名（昨年25名）、可7名（昨年12名）、不可1名（昨年0名）であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は、論理的な思考判断 (DP2)、看護職として学び続ける意欲関心 (DP3)、倫理に基づく行動と多職種連携の態度 (DP4) を目指している。あらゆる年代、あらゆる健康レベルの対象から共通した健康上の課題を捉え、個別・集団・地域のアプローチを組み合わせることで支援する内容である。基礎となる知識は、多岐にわたり、各看護学の保健の部分に加え、健康科学や社会学も必要である。それらをもとに「思考判断」し、社会の動きを常に学び続ける「意欲・関心」を持ち、保健・医療・福祉の領域と連携する「態度」を養う科目である。

授業評価の自由記載から、「気になる地域活動について調べた」とあり、図書館等の利用についても「図書館を利用した (18%)」、「インターネットのホームページを利用した (86%)」であった。全員とはいかないが、選択して授業を受けてくれた学生だけに、自ら調べようとする姿勢がうかがわれる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業内容は、15回授業を「健康課題別」「ライフステージ別」の2つに区切って解説した。

地域保健活動はあらゆる健康状態、あらゆる年齢の集団や地域を対象としていることから、病棟の看護に比べて対象をイメージしにくい。また、病棟の看護は患者に直接看護技術を提供するが、公衆衛生では間接的な援助方法を用いるため、テクニックとして表しにくい。そのため、教科書は自己学習の立ち戻り先として使い、講義の解説にはオリジナルのレジメと、毎回、保健師ジャーナルから事例を準備した。保健師ジャーナルの事例は、実際の先駆的な地域活動であることから、活動の目的、対象、連携職種、保健師の機能や役割を解説して、活動イメージを図った。

またグループワークを取り入れ、表面的な活動方法ではなく、「なぜ・どうして」をディスカッションしていった。グループに差があったものの、活動の背景や長期目標と短期目標を合わせて考えることが出来ていた。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示ください。

本科目は対象の課題や使用する技術の可視化が難しい。そこで、方法論を解説するだけでなく保健師ジャーナルで公衆衛生看護で先駆的な活動例を紹介した。保健師ジャーナルは、専門雑誌であるため学生には難しい内容である。授業の最初の何回かは、取り組みの内容を理解するためワークシートを用意し、ポイントを説明しながら読んでいった。

保健師過程を目指している学生と看護師課程の学生では、意欲に違いがあるなかで、学習の意欲を維持するのは難しい。この科目の内容が看護師国家試験に出題されている事、今後の看護活動は病院完結型では出来なくなっている事、看護師に必要な知識である事、をしっかりと意識させていきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護管理論	4	後期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>4年生後期の選択科目である。保健師課程の学生には必修科目である。</p> <p>本科目は、保健師課程実習前に2コマ開講し、終了後後期に開講する計画で実施している。実習での事象を想起しながら、公衆衛生看護管理としての学習を計画している。授業形態はアクティブ・ラーニングを取り入れた授業となっている。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された		達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は、89.9(89.91点であり、再試対象者はいなかった。理想的レベルに88.2%が達した。</p> <p>目標別にみると、思考判断に関しては88.2 (86.9)%、意欲関心に関しては97.0 (90.0)%、態度に関しては90.7(93.3)%であった。学習成果としては、目標は達成できたと考える。思考判断、意欲関心及び態度において一定の教育成果は評価できる。4年生後期の科目であり、実習を含め保健師教育関連科目を終えている段階と考えると妥当な結果と考える。</p> <p>この結果から科目の目的は達成できたと評価できる。</p> <p>学生の到達度自己評価においては、全項目においての評価平均が3.9～4.5点であり、昨年度の3.9～4.3と比較しても、概ね到達できたと判断できる。今後の本科目の意義を含め学習方法の検討をさらに進めていく。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>DP・CPカリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性</p> <p>本科目は、「専門教育科目」の「公衆衛生看護科目」の位置にあり、選択科目である。保健師課程選択者が受講するため、受講動機は明確であるが、開講学年が4年生後期であるため、卒業後の新人保健師育成から管理的視点にいたるまでの授業内容を計画している。</p> <p>最終的な成績評価及び学生の到達度自己評価から概ね目的は達成できていると評価できる。そのため、内容的には妥当であると考えている。学生の学習意欲を高める授業展開の検討は、今後も必要である。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業方法の展開において課題の提供について、前年度の結果を踏まえ、学生の実習での成果状況を踏まえ、個々の学生にあわせ、題材を提供する形で講義を展開した。学生も実習後のため、地域の課題を想起しやすく、成績の結果にもその状況が反映していると考えられる。コロナ禍のため、現場での実習において、直接、学生が実施したり、体験する機会は、まだ少ない状況にある。そのため、昨年に引き続き、教材の検討を行い実施したが、授業の質評価においても4.2～4.4と学生の意欲に応えることができたと考えられる。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目の達成状況については、ほとんどの学生がDPの目標を理想的レベルで達成できている。</p> <p>本年度も教材の検討開発で試行錯誤の状況で進めた経緯があるが、学生の学習態度が積極的で、地域の事象に対する公衆衛生看護管理としての捉え方を学びたいという姿勢がみられた。少人数教育の為、受講者個々の学習状況も把握しやすいこともあり、学生と教員の双方向のコミュニケーションを生かした授業展開を引き続き取り組んでいきたいと考えている。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
学校保健	2	後期	選択		6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、看護学科「専門教育科目」の選択科目であるが、養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目でもある。学生全員が「資格取得に必要な科目」と認識し、「必修科目である」として学生の50%が認識していた。</p> <p>「学校保健」は、主に学校保健に関する基本的な知識を学ぶ。他にも学校保健に関連した学校安全や食育について学ぶ科目である。学校保健に関する知識や理解が中心となる講義であるため、知識が定着するよう、事前課題の発表、復習として学生自身がポートフォリオを作成し、テストに活用できるような授業構成にしている。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な学生の成績の到達度は、76.8 (±3.1) であった。成績は「優」を修めた者が16.7%、他の学生は「良」であった。学生のDP目標別達成度は、「知識・理解」73.8%、「思考・判断」が83.2%、「関心・意欲」86.3%であった。理想的なレベル（概ね80%以上とする）からみると「知識・理解」の達成がやや低い。</p> <p>しかし、学生の「到達度自己評価」の平均値は4.3～5.0という結果からみると、概ね教育目標に達成されたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①カリキュラムマップの位置づけからみでの内容的妥当性
看護学科「専門教育科目」の選択科目であり養護教諭を志望する学生にとっては必修科目である。2年生後期に実施しているが、看護学科のカリキュラムマップ上の位置づけからみて妥当であると考えます。

②DP、行動目標からみでの内容的妥当性
成績評価からみて、理想的なレベル（概ね80%以上とする）とDP別の「知識・理解」が73.8%の達成であるが、内容的には妥当であると考えます。

③まとめ
以上のことから内容的妥当性に問題は無いと考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の「授業の質評価」の平均値は、4.7～5.0であった。
学生の「学習量」は、準備を「6回実施」と回答した学生が最も多く83%いた。
学生の「情報利用」について、シラバスは83%の学生が参考にしていた。計画を立て授業を受ける学生が67%いた。
学生の「図書館利用」について、「図書・データベース・インターネット」は全員が利用していたが使用していた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

看護学科における「専門教育科目」であり、養護教諭免許状取得に関しては必修科目である。学校保健の基礎的な知識を主に理解していく科目である。最終的な学生の成績の到達度は、全体成績が76.8%、「知識・理解」については73.8%というやや達成されたとはいえない結果であった。
しかしながら、学生の「到達度自己評価」平均値4.3～5.0、学生の「授業の質評価」平均値4.7～5.0という結果から考えると、学生の授業の質に対する評価は低いとはいえないことから、教育目標を概ね達成したと考える。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
養護概説	2	後期	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、看護学科専門科目の選択科目であるが、養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目でもある。養護教諭の専門的な仕事を理解しやすいよう、「学校保健（学校保健や学校安全や食育を学ぶ講義）」の履修後に、この講義を履修するよう計画している。また、学生の事前学習をいかし、授業内で、発表やグループワーク、実技演習など、知識・理解を活用する活動を多く取り入れるような授業構成にしている。</p> <p>学生の認識は、「資格取得に必要な科目」であるが100%、「関心のある内容である」が80.0%であった。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績としては、83.2 (±2.50) 点、全員が「優」という成績であった。DP目標別達成度は、「知識・理解」が78.1%、「思考・判断」が85.6%、「意欲・関心」98.3%で、「態度」が81.2%であった。理想的なレベル（概ね80%以上とする）に、全体的には到達しているが、「知識・理解」はやや達成できていないという結果であった。</p> <p>しかし、学生の「到達度自己評価」における平均値は4.6～5.0で、学生自身の到達度は高かった。</p> <p>学生の「学習量の評価」は、30分以上の予習を「4回」以上と回答した学生が80%・復習は100%取り組んでいた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性

本科目は看護学科の「専門教育科目」であり、教職の養護教諭一種免許状資格に必要な科目である。2年後期に実施しているが、看護学科のカリキュラムマップ上の位置づけからみて概ね妥当と考える。

②DP、行動目標からみての内容的妥当性

成績評価からみると、80%を理想的な達成レベルと考えると、全体成績およびDPの項目別にみても概ね達成している。学生の自己評価を含め、授業内容は概ね妥当であると考ええる。

③まとめ

以上のことから内容的妥当性に問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の「授業の質評価」は、4.2～4.6であった。学生の「到達度自己評価」における平均値は4.6～5.0とあるように、実際に学生は、予習や復習、講義においても発表や演習を前向きに取り組んでいた様子がみられた。

「情報利用」について、シラバスは80%が参照し、計画を立て授業に参加している学生が60%いた。

「図書館の利用」について、「図書・データベース・インターネット」は全ての学生が活用していた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

看護学科「専門教育科目」の選択科目であり、養護教諭一種免許状取得においては必修科目でもある。学生の成績からみた達成度や学生自身の「到達度自己評価」や「授業の質評価」から教育目標に概ね達成したと考える。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆衛生学	1	後期	必修	いいえ	90

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本授業を実施するにあたり、社会において人間の生命と健康に携わる看護職（看護師、保健師、助産師、養護教諭）にとって、「公衆衛生」の意義および人々の生命や健康がどのようにして守られているのか、方法や制度、システムの知識を修得できるよう授業計画を立案した。</p> <p>公衆衛生学の範囲は広く、全8回で授業でおさえる領域や知識量が多いため、事前に学生用の講義ノートを作成し、学生の予習・復習に活用できるよう準備した。また、講義ノートには、各回の最後にその回のポイントとなる知識を確認できるよう、複数の問題を明記した。また、その際、テキスト目次と講義回の一覧表や、国家試験出題基準の該当箇所等を示すページを設けるなどの工夫を行った。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された			
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*最終科目試験成績：平均値71点、分布（90点以上4名、80～89点20名、70～79点21名、60～69点22名、～59点18名、追試1名）。追再試験受験者は全員合格し、目標を達成した。DP別成績平均：DP1（40.7/60点）、DP2（29.4/40点）</p> <p>*学生の到達度自己評価：「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた（平均値4.6、中央値5.0）」、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた（平均値4.5、中央値5.0）」、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた（平均値4.5、中央値5.0）」、「自分なりの目標を達成した（平均値4.4、中央値5.0）」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた（平均値4.4、中央値5.0）」、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた（平均値4.3、中央値4.0）」「職業選択の参考になった（平均値4.3、中央値4.0）」、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた（平均値4.2、中央値4.0）」、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた（平均値3.8、中央値4.0）」</p> <p>*授業の記録：作成したノートに行った者67名（95%）、記録をしなかった者1名、自分なりのノートを作成した者1名</p> <p>*学修のための情報活用：シラバスの記載を活用した者43名（61%）、あらかじめ授業計画を立てた者35名（49%）</p> <p>*図書館、インターネット利用：図書館の図書、雑誌の活用8名（11%）、学術データベースの活用7名（10%）、インターネットの活用28名（39%）</p>					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、 「学習到達度の自己評価」、 「学習量の評価」、 「学修のための情報利用」、 「図書館、インターネット利用」、 自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>*受講動機：「必修科目である」100.0%、「資格取得に必要である」29.6%、「関心のある科目である」18.3%、「単位数を確保する」7.0%、「GPAをあげる」1.4%、「友人が履修している」2.8%</p> <p>*学生の到達度自己評価：「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた（平均値4.6、中央値5.0）」、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた（平均値4.5、中央値5.0）」、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた（平均値4.5、中央値5.0）」、「自分なりの目標を達成した（平均値4.4、中央値5.0）」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた（平均値4.4、中央値5.0）」、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた（平均値4.3、中央値4.0）」「職業選択の参考になった（平均値4.3、中央値4.0）」、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた（平均値4.2、中央値4.0）」、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた（平均値3.8、中央値4.0）」</p> <p>以上より、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみて内容的妥当性はあると考えられる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>*授業の質評価：「テスト、レポート、提出物の評価基準は明らかであった（平均値4.4、中央値5.0）」、「期間内に行うべき学生位の範囲や課題は明らかであった（平均値4.5、中央値5.0）」、「説明は理解しやすいものであった（平均値4.3、中央値5.0）」、「授業内に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた（平均値4.3、中央値4.0）」、「口頭、文書など何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた（平均値4.0、中央値4.0）」</p> <p>*学習量の評価：1回30分以上の予習回数…3回2名、2回6名、1～2回14名、1回11名、0回38名、1回30分以上の復習回数…3回7名、2回5名、1～2回14名、1回15名、0回38名</p> <p>*授業の記録：作成したノートに行った者67名（95%）、記録をしなかった者1名、自分なりのノートを作成した者1名</p> <p>*学修のための情報活用：シラバスの記載を活用した者43名（61%）、あらかじめ授業計画を立てた者35名（49%）</p> <p>*図書館、インターネット利用：図書館の図書、雑誌の活用8名（11%）、学術データベースの活用7名(10%)、インターネットの活用28名(39%)</p> <p>*自由記載：「事前にノートを作ってくれたおかげで、授業の内容をよりわかりやすく理解しやすかった。」「自分なりにノートをまとめることができた」</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>知識理解（DP1）、思考判断（DP2）はいずれも到達目標を達成した。達成度自己評価でも、DP1、DP2に関する項目についてはいずれも、95%以上が肯定的評価であった。客観評価、主観評価の結果から、学習目標は達成したと考えられる。</p> <p>公衆衛生学の範囲は広く、8回でおさえる知識量が多いため、学生の予習復習に役立ててほしいと考え講義ノートを作成した。しかし、最終科目試験の得点分布をみたところ、高得点層と低得点層とが同数近くに分かれる結果となった。学修量の評価を見ると、予習、復習に活用した学生もいるが、約半数は自己学習30分以上を全く行っていないと回答しており、得点分布の結果と類似していたことから、次年度は、講義ノートの活用方法を見直し、低得点層の知識修得を促すことが課題である。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	梶原 江美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生活援助技術論演習	1	後期	必修	いいえ	90

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>生活援助技術論演習は、専門教育科目の看護実践の基本にあたる。日常生活行動を自分では行えなくなった人への援助について「活動・休息」「清潔・衣生活」「食事」「排泄」を単元とした必修科目である。</p> <p>学生自身が日常に行っている生活行動であるため、自身の日常生活行動を振り返ってもらうことを予習課題に取り入れ、授業でも想起することで援助と結びつけるようにしている。</p> <p>また単元終了後、事例を基に患者に合わせた援助についてGWを行い、実技試験として援助を実施した。本科目に必要な知識の要点については、看護師国家試験問題などを活用して、学習意欲を高めることを目指した。今後も継続して、自ら文献や動画を活用してレディネスを整えてくれることを期待している。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された		達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、筆記試験60%、レポート外の提出物20%、その他20%で評価した。その他は事例を用いてGWを行い、援助を実施する実技を点数化したものである。到達度自己評価(1)～(10)の中央値は4.0～5.0、平均値は4.2～4.6で推移しており、授業の質評価では、中央値4.5～5.0、平均値4.3～4.5で推移していた。これは、学生から見ると授業は一定の質を担保しており、一定の意欲をもって学習に臨むことができたことを示している。実際の最終成績は、平均75.91±8.92点で、秀-3名(3.4%)、優-31名(34.8%)、良-36名(40.4%)、可-14名(14.7%)、試験放棄2名であり、学生の評価との乖離は少ないと考えている。</p> <p>要因の一つとして、学生自身の学習量評価にある「自発的学習として授業課題以外での学習の取り組み」について、約70%の学生が取り組んだと回答しており、①調べ学習をする、②自分で要点を整理する、③自宅や空きコマを使って実技のコツをつかむ、練習する、動画の視聴、④知識定着のために資料を印刷して複数回できるよう取り組んだ、といった学習を自ら行っていた。また、実習室での学生の自己練習に、担当領域の助教助手の効果的な指導があったことも学生の学修の動機づけの一助となったと捉えている。</p> <p>学生による授業評価については、到達度自己評価で概ね85%以上の学生が「わりにそうだと思う」または「かなりそうだと思う」と回答しており、客観的評価である成績と学生の主観的な達成感が相関しているものと考えている。理由として、学習量の自己評価の中で予復習実施率が高く、授業の課題以外に学習に取り組んだ学生の割合も高かったことが挙げられる。今後は、学術データベースを活用した図書館の利用なども視野に入れ、学習の充実を図っていきたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
本科目は、「専門教育科目」の看護実践の基盤に位置付けられている必修科目である。1年前期科目「看護技術論演習」で学修した看護の共通技術を経て、具体的な日常生活行動の援助方法を学ぶ位置づけとなる。前期よりも実際の看護援助を演習で実施するため、基本的な知識、技術、態度の修得には、学習への動機づけと直接的な技術指導が重要になる。上記記載の成績評価や学生の授業評価から考えて、授業内容の妥当性は確保できていると考えている。

②DP,行動目標からみでの内容的妥当性
知識・理解65%、思考・判断25%、態度10%で構成している。学生の自由記述や成績評価から目標は達成できたと考えている。

③まとめ
以上から、内容的に妥当性には問題はないと考え、来年度も授業構成は継続してよいと判断している。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

初回の授業ガイダンスで、本科目で学ぶ学修目標やDPとの関連、内容、評価について説明した。単元進度としては、「活動・休息」「清潔・衣生活」「食事」「排泄」の講義を行い、必要な知識をpushしたうえで、看護学実習室での演習を実施した。演習内容は、実習室で「仰臥位から端座位への体位変換」、「車いす・ストレッチャーの移乗移送」「清拭」「洗髪」「足浴」「口腔ケア」「陰部洗浄とおむつ交換」を実施し、食事介助は事前に課題を提示して実施した内容を整理して、GWを行った。また、後半は、統合型演習として複数の援助を有する患者の事例を2事例提示し、患者に合わせた援助について、3人1組のGWをして実践する場を設けた。看護援助の実践を全員が体験できたこと、グループで患者への看護を考えて協力しながら計画を立てて実施の練習をしたことは、単に知識や技術を学習するよりも統合して考えることが出来たのではないかと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目は、専門教育科目の看護実践の基本にあたる日常生活行動を自分では行えなくなった人への援助について学ぶ科目である。
学生の多くは、そのことを認識して、積極的に学修をしていることが成績評価および学生の到達度自己評価からも確認できた。
複数の教員が関わる科目であるため、指導内容の共通認識を今後も継続していきたい。
課題量や実習室での練習環境など、今後も検討して学習環境を整えていきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	小田 日出子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ヘルスアセスメント演習	1	後期	必修	いいえ	92

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>新カリキュラム「ヘルスアセスメント演習」の授業にあたっては、従来の「フィジカルアセスメント技術演習」の授業同様、以下1～5を大切と考えて授業を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護アセスメントの前提となる基礎知識の理解はもとより、看護の対象の身体状態を正確に把握するために必要な基本看護技術（バイタルサイン測定技術など）を確実に習得できるように支援する。 2. 「生きている」ための機能に係る主な器官系（呼吸器系・循環器系・消化器系）のフィジカルアセスメントに必要な知識と技術を習得できるように支援する。 3. 「生きていく」ための機能に係る主な器官系（感覚器系・脳神経系・運動器系）のフィジカルアセスメントに必要な知識と技術を習得できるように支援する。 4. 看護の対象を身体的、心理・社会的側面から総合的に理解することの必要性とその見方・考え方を、概説的な捉え方にはなるがわかるように支援する。 5. 演習（技術習得の過程）を通して看護者役割を演じる自己を客観視し、看護者に望まれる姿勢・態度についても考える機会とし、期待される行動変容につなげられるように支援する。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない		どちらともいえない	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>当該科目は「必修科目」(100.0%)であり、1年次生全員が履修する。これ以外の受講動機として、学生は「資格取得に必要」(41.3%)、「関心のある内容」(14.3%)、「単位数を確保する」(7.9%)、「GPAをあげる」(1.6%)の4つを挙げていた。受講生の意欲・関心について、授業スタート時の全体印象は例年とほぼ変わりなかったが、まずは初回授業時に最前列で爆睡している学生の姿に驚かされ、その後も授業を重ねる毎にクラス全体としての士気の低さは気になってはいたが、演習時の個別の関わりでは積極的に学ぼうとする学生の姿を見ることが多かった。</p> <p>今年度も、成績評価の割合は、筆記試験(60%)、実技試験(20%)、課題レポート及び学習貢献度(20%)による総合評価とした。実技試験を実施した際は、本試験当日を「やむを得ない事由(COVID-19)」により欠席した者4名を除く受験者88名のうち、実技本試験合格者63名、不合格者25名であった。昨年の状況(合格者:34/101名)に比較すれば、COVID-19感染防止策として看護学実習室での自主練習の期間や時間、入室する学生数を制限した中で、学生は熱心かつ意欲的に準備に取り組んでいたと感じている。「やむを得ない事由」により本試験を欠席した4名については別日に実技追試験を実施したが、学内入構停止等の影響もあって合格者は1名にとどまった。実技本試験に不合格となった者28名について再試験を実施した。当日を「やむを得ない事由(COVID-19)」により欠席した学生2名を除き、実技再試験の合格者は22名であった。「やむを得ない事由」により実技再試験を欠席した2名については、本試験同様、別日に実技再試験の追試験を実施した。結果は合格1名、不合格1名であった。最終的に5名の学生が実技試験を「不合格」となったが、このうち1名は退学、1名は転学科となったため、残り3名は臨地実習までに実技(VS測定技術)の再指導が必要と考えている。</p> <p>当該科目の最終評価は、秀 該当者なし、優 5名(5.7%)、良 25名(28.4%)、可 56名(63.6%)、不可(再履修者) 2名(2.3%)であった。クラス平均も 64.2 (SD±12.6) 点と低く、最高 84点、最低 37点と、クラス全体として昨年度(平均 71.0±10.27点、最高 89点、最低 44点)を7ポイント以上下回っていた。クラスの6割以上が標準(70点)に達していない状況は、2年次の専門科目の学修への影響が懸念されるところである。</p> <p>学習量の評価に関する自由記述には、「授業についていくのでいっぱいだった(2件)」「時間がなかった(4件)」「課題だけで精一杯だった(7件)」「他の科目の課題や授業の課題に追われていた(1件)」「何をすればいいかわからなかった(1件)」等、消極的な意見が多く、実際、前述した最終成績結果は当然の成り行きと考えるクラス全体の雰囲気があり、学びの姿勢・態度には課題があったと感じている。そうした中で「演習前にはその箇所の教科書を読んだり動画を視聴したりした(1件)」と、自主的・主体的な学びの姿勢・態度を備えた学生がいることは救いである。</p> <p>到達度自己評価では、全項目中央値:4.0又は5.0、平均値:4.1～4.4で、全体として学科のそれを0.1～0.3ポイント上回っていた。各項目の内訳は「自分なりの目標を達成した」(4.0/4.0)、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.4/5.0)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(4.1/4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた」の3項目は平均値 4.3/中央値 5.0であった。その他は、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(4.4/5.0)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(4.1/4.0)、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(4.2/4.0)、「職業選択の参考になった」(4.3/4.0)であった。</p> <p>以上の結果をもとに、当該科目の教育目標の達成状況は、全体を通して「どちらともいえない」と判断した。判断の理由として、授業の質評価では5項目中2項目は平均値 4.3/中央値 4.0、残り3項目は平均値 4.3/中央値 5.0で、全体として学科のそれをわずかに上回ってはいるものの、授業の質評価と学生の成績結果には大きな乖離がある。よって、当該科目で「学生が達成すべき行動目標」は、知識理解 (DP1)、思考判断(DP2)、態度(DP4)ともに「どちらともいえない」と判断した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

学生は当該科目を「必修科目である」(100.0%)として、また「資格取得に必要なものである」(41.3%)との認識をもって受講していた。到達度自己評価「自分なりの目標を達成した」(平均値4.1/中央値4.0)は、学科全体のそれと等しく、学生は自分なりの目標をもって授業に臨んでいたと考える。但し、実際の学習状況や学修到達度との比較においては、到達度自己評価との間に乖離がみられるため、DPから見た科目の位置づけ、当該科目の学習目標の内容的妥当性及び教育目標の達成度については、全体を通して「どちらともいえない」としたのは妥当な判断であったと考える。

学生の自由記述からは、本授業の学修準備として、授業の課題以外に「解剖生理学の復習」をしたり、「講義資料の読み直し」をしたり、インターネット等を活用した「調べ学習」をしたり、「学んだ技術の自主練習」に取り組んだり、当該科目が最初に提示した「学生が達成すべき行動目標」の達成を目指して自主的・主体的に学習に取り組んでいた様子は窺える。しかし、それが成績評価に効果的に反映されたかといえそうとも言えず、こうした点を総合的に勘案した結果として、DP4「態度」を「どちらともいえない」と判断した。DP1「知識理解」、DP2「思考判断」に関しても、学生の到達度評価2-(2)は平均値 4.4/中央値 5.0、2-(3)は平均値 4.1/中央値 4.0、2-(3)~(5)は平均値 4.3/中央値 5.0と、いずれも学科のそれを上回ってはいるものの、一方で、①成績評価の結果は昨年度を7ポイント以上下回っていた、②総合評価において標準レベルに達していない学生の割合が昨年度以上に多く全体の63.6%を占めていた、以上2点を根拠に、DP1「知識理解」、DP2「思考判断」の目標到達度についても、DP4と同じく「どちらともいえない」と判断した。そのうえで、全体を通して「どちらともいえない」とした判断は妥当であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

1年次生92名を対象に、例年と同じく看護の対象者の身体状態把握のための観察技術（バイタルサイン測定技術）、「生きている」ための機能に係る呼吸器系・循環器系・消化器系、「生きていく」ための機能に係る感覚器系・脳神経系、運動器（筋・骨格）系のフィジカルアセスメントに必要なフィジカルイグザムの習得を目標に、講義・デモンストレーション・技術演習・実技試験の流れで1単位 30時間（2コマ連続 8回）の授業を行った。

当該授業は、その大半が「対人」での技術演習となるため、コロナ禍にあっては、通常の講義・演習はもとより、実技試験に向けての自主練習等、3密を避けるためにクラスを2分したり、シミュレーターを活用して患者体験の機会を減らしたり、自主練習日の振り分け、実習室への入室制限、練習時間の制限等、感染防止策の実施に努めた。ただ、自他ともに健康を守る上での必要な対処とはいえ、学生側からみれば、何らかの不自由・不都合・不充足を感じる状況下にあったと考えられ、コロナ感染拡大防止策としてのこうした対応が、実技試験をはじめ当該科目の学習到達度に少なからず影響したものと推察する。勿論、基礎看護学領域を担当する教員・助手と協力し、学生の技術習得に向けた実践的な支援は積極的・計画的に行ったが、コロナ前と比較すれば圧倒的に個々に使える時間は制限されており、学生が個々に看護の基本技術を確実に習得できるだけの十分な学習環境を提供できたとは言いがたい。

昨年度と異なり全てを「対面」で授業できることは、本授業にとっての大きな強みとなる。しかし、限られた時間の中で個々の学生にきめ細かく十分な支援・指導ができるかは課題であり、毎回の演習の運営方法については試行錯誤の日々であった。だからこそ「毎回学習することが初めて知ることばかりで、学ぶことがたくさんありました」「基本的なヘルスケアの知識とバイタルサインの測定技術を身につけることができ、将来に役立てようと思いました」「DVDを見たので想像しやすくわかりやすかった」等の前向きな意見には救われる。一方、「インフォメーションがもう少し早いと準備に余裕が持てていいと思った」の意見は、自身への振り返りとして真摯に受け止めた。

学習量の評価について、殆ど(95.2~100.0%)の学生が「予習・復習」に、65.1%の学生が「自発的学習」に取り組んでいた。また、情報利用については、92.1%の学生が「シラバスの記載を参考にした」と回答していたが、その割に「あらかじめ授業の計画を立てた」学生は57.1%にとどまっていた。授業計画を立案した場合「シラバスに沿って授業を受ける計画を立てた」(58.3%)、「教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた」(63.9%)で、受講生の半数以上がシラバスや教員のオリエンテーションを基に計画的に授業に臨んでいたようである。ただ、実際の受講状況や学生の学びの姿勢・態度には上記結果と整合しない点もあり、学生個々の努力が学習成果にうまく反映されてはいなかったように思う。「計画的に取り組んだ」つもりでも、その具体的内容や方法の是非、実行の有無は不明である。学習成果につながる効果的な学習計画が立案できていたかの確認及びそれを受けての支援が必要だったのかもしれない。

図書館等利用については、図書館の図書等を利用した(30.2%)／しなかった(69.8%)、学術データベースを検索・利用した(17.5%)／しなかった(82.5%)、インターネットのHPを検索・利用した(52.4%)／しなかった(47.6%)との回答であった。ネット社会を生きる現代学生気質を覗かせつつも、未だ大学での学び方や主体的学習者としての在り方を備えるには至っておらず、看護系大学1年次生としての学習レディネスに課題を残す学生の現状を捉えることができたように思う。そうした特性をふまえ、教員としていかに関わるかが今後の課題となろう。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>当該科目の成績評価は、筆記試験(60%)、実技試験(20%)、課題レポート及び学習貢献度(20%)による総合評価としている。成績の最終結果は、秀0名(0.0%)、優5名(5.7%)、良25名(28.4%)、可56名(63.6%)、不可(再履修者)2名(2.3%)で、クラス平均も64.2(SD±12.6)点と低く、最高84点、最低37点と、クラス全体としても昨年度(平均71.0±10.27点、最高89点、最低44点)を7ポイント以上下回っていた。クラスの6割以上が標準(70点)に達していない状況は、2年次の専門科目の学修への影響が懸念されるところでもある。</p> <p>一方、学生による到達度自己評価は、全体を通して「自分なりの目標を達成した」(4.1/4.0)は学科平均値と同値であったものの、項目別には平均値4.1～4.4/中央値4.0～5.0で、学科の平均値をほぼ上回っていた。当該科目は演習中心の科目であるので、特に、DP「技能・表現」に対応する(7)「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(4.4/5.0)が高値であったこと、「知識・理解」「思考・判断」に対応する項目(2)～(5)も(3)以外は平均値4.3～4.4/中央値4.0～5.0と比較的高かったこと、また、授業の質評価においても平均値4.3～4.4/中央値4.0～5.0と比較的高値であったことから、教員側の取り組みとしては、教育目標の達成にある程度有効であったと考える。これらのことから、学生の学ぶ姿勢、学ぶ意欲・関心は授業時の全体印象ほど悪くはないと推察できるものの、そうした態度・行動が最終的に当該科目の成績評価に効果的に反映されなかったことを考えると、やはり達成状況の総括的評価としては「どちらともいえない」の判断が妥当と考える。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	吉原 悦子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
地域生活支援論	1	後期	必修	いいえ	90

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、新カリキュラムにおいて、看護実践の応用に位置付けられた科目であり、低学年から看護の対象となる人々を生活者として捉えることが求められており、「地域で生活する人々」をキーワードとし、自らの生活に着眼できることを目標とした科目である。1年生後期科目として組まれている。そのため、より具体的に落とし、できるだけ抽象的な表現は避け、講義を行った。また、必ず、講義の中で、こちらが提示した内容について考える時間や友人とディスカッションをする時間を設けた。看護は人々の暮らしを理解することが必要であるが、何気なく暮らしていることを意識し、生活や暮らし、属している集団などを振り返ることを心掛け、学生自身も生活者であることを意識づけた。また、これまでは既習の知識として持っていた社会保障についても並行で講義が行われるため、社会保障の教科書も使用して関連についても講義した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された	やや達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は、68.4点であり、昨年より、下がっている。しかし、理想レベルに達したものは約4割で昨年より増加している。</p> <p>目標別にみると、知識理解は、5割、思考・判断については6割、関心・意欲については6割であった。思考・判断、関心・意欲についてはやや達成されたが、知識理解については、どちらともいえない状況で、全体的には、習熟度にばらつきがあるといえる。</p> <p>授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価は全項目において、概ね達成したと回答した学生が多かった。授業評価アンケートでは本科目の教育目標はある程度達成できたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
本科目は、看護学科科目のうち「看護実践の応用」に位置付けられており、必修科目である。専門科目のベースとなることから、内容的には妥当であると考えられる。

②DP、行動目標からみでの内容的妥当性
行動目標については、授業評価アンケートの結果からは、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.0)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」(4.0)「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた。」(4.0)であった。この科目は知識だけではなく、柔軟な視点を持ち、地域で生活する人をどうとらえるのかということを考えていくため、覚える知識を習得したというより、その日の講義を受け、「近所の老人ホームについて調べた」、「様々な職種について調べた」など自発的な学習も行われており、これから看護の専門性を学ぶ上での学習意欲への促しにつながったのではないかと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価ではほとんどの学生が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、概ね評価や質問に対する対応ができていたと考える。しかし、コミュニケーションや表現力を高める、職業倫理や職業選択では「まったくそうでない」と答えた学生もいた。地域包括ケアは病院の中だけではない看護の役割にも言及するため、学生のイメージがつきにくいことも考えられた。そのため、今後も講義の中ではできるだけ、具体例をあげ、学生がイメージしやすいように話し、興味や関心を持ってもらう工夫を行っていく必要がある。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

全体的に講義内容として学生には概ね伝わり、概ね達成できた。しかし、習熟度に差があると考えられ、具体例もきちんと示しながら、さらに発展的な思考ができるような内容を検討していく必要がある。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	木村 政伸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育原理	1	後期	選択	はい	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教職課程の必修科目として位置づけられており、また「教職コアカリキュラム」によって取り扱うべき内容が決められていることから、それに沿いつつ時宜に合わせて授業の内容を精査している。</p> <p>②「教職コアカリキュラム」に、教育の原理的内容が含まれていることから、教育思想、教育制度の歴史をまず教授し、次いで現代的な問題について取り組んでいる。</p> <p>③1年生ということもありまだ教職への意識が強固とは言えない。したがって、教職を意識しつつ、市民的教養という側面からも教育・学校・子どもについて、知識や関心を持つように授業の構成を考えた。</p> <p>④学生同士の意見交換を大事にしたいと思い、グループワーク、ディベートを取り入れた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>①評価は、授業への参加具合、レポート提出の合計点で行った。</p> <p>②90点以上0名、80点以上90点未満24名、70点以上80点未満9名、60点以上70点未満4名、レポート未提出（単位の放棄）3名、合格者平均が71.9点であった。授業全体で90点以上は8名なので上位者がいないこと、さらに、平均点も他学科に比べて見劣りがすると云々ざるを得ない。</p> <p>③評価の重点をレポートに置いたために、日ごろの学修具合を検証することが難しかった。</p> <p>④グループワークに慣れていない面は見られたが、ディベートでは熱心な討論が行われた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①DPカリキュラムマップにおける本科目の位置づけ

本科目は教職課程の科目であり、ほとどの大学にでも共通するカリキュラムマップにそっており、内容的な妥当性は問題ないとする。

②DPについて

教職課程独自のDPがないために、評価項目が授業のねらいと必ずしも整合的でない。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①学生の意見に、素材が古いという意見があったが、「コアカリキュラム」でも教育思想史や制度史に触れることを求められており、歴史の授業は不可欠である。学生の中に歴史学習への意識がないのか、あるいは授業方法が合わないのかわからないが、「歴史嫌い」があるとすれば興味を持てる歴史授業を構築する必要がある。

②授業中の感想の中に理不尽ともいえる要求があり、対応に苦慮している。そうした要求について、どう学生と問題意識を共有すべきか工夫してみたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

①教育学の基礎に関する総括的な授業であるために、教職への志向を高める内容が不足していた。看護学科は、2年時前期に選抜があるので、そのことも勘案して2年時の教職概論との連携を考えて授業内容の構成を工夫したい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育社会学	2	後期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>○教職課程の科目であり、学生の参加意欲はある程度みられるが、教職教養科目であるため教師の専門性との結びつきは明確でないことが多い。</p> <p>○教育の現代的課題などと結びつけながら理解させることで、科目の意味を理解できるよう意識した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>○全学科：平均点83.3点、秀14人 (20.6%)、優34人 (50.0%)、良17人 (25.0%)、可2人 (2.9%)、不可1人 (1.5%)。SD8.04。</p> <p>○看護学科（本年度）：平均点87.7点、秀3人 (50.0%)、優2人 (33.3%)、良1人 (16.7%) 可0人 (0.0%)、不可0人 (0.0%)。SD7.15。</p> <p>○看護学科（昨年度）：平均点94.5点、秀8人 (100.0%)、優0人 (0.0%)、良0人 (0.0%) 可0人 (0.0%)、不可0人 (0.0%)。SD4.58。</p> <p>○本年度は昨年度と比べると分散が大きく、平均点も低下したが、出題難易度や持ち込み等の試験条件の変更に伴う影響も考えられる。全体として満足できる結果であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

○教職課程の科目であり、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置付けからみた内容妥当性に問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

○昨年度と同程度の学習内容・程度であった。

○試験問題や昨年度より思考を求めるものが増え、やや難化した。

○本年度は次の2点に取り組んだ。(1)レジュメにおける事例や用語解説を充実させた。(2)オンライン授業で活用されたクラスルーム機能を維持するため、資料の提供などを充実させた。

○到達度が昨年度より低下したのは、試験問題の難易度などが影響したと予想される。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

○本年度は全体的に満足できる結果であった。平均点は優レベルであり、知識の定着・思考を要求する問題とも大きな問題はない。

○昨年度に比較すると分散が大きいが、試験によって学生の実力を測定するという意味で、昨年度よりは適切であったと考える。

○次年度はより思考力を要求する授業内容を充実させ、試験の要求レベルも上げていきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	木村 政伸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育課程論	2	後期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教職課程の必修科目として位置づけられており、また「教職コアカリキュラム」によって取り扱うべき内容が決められていることから、それに沿いつつ時宜に合わせて授業の内容を精査している。</p> <p>②「教職コアカリキュラム」に、本科目の骨子が規定されていることから、教育課程の原理的歴史をまず教授し、次いで現代的な教育課程をめぐる問題について取り組んでいる。</p> <p>③2年生後期となって、少しずつ教職への意識がめばえている。したがって、教職を意識しつつ、具体的な教員としての資質形成につながるような工夫を行った。</p> <p>④学生同士の意見交換などのような学修上の主体性を大事にしたいと思い、グループワークを半分ちかく取り入れ、また反転授業にも取り組んだ。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>①評価は、授業への参加具合、ミニレポート、期末レポート提出の合計点で行った。</p> <p>②90点以上0名、80点以上90点未満5名、70点以上80点未満0名、60点以上70点未満1名、レポート未提出（単位の放棄）0名、平均点79であった。1名のみ低得点がいたために平均点がさがったが、全体としては良好な成績だったと考える。</p> <p>③評価の重点をレポートに置いたために、日ごろの学修具合を検証することが難しかった。</p> <p>④グループワークに慣れていない面は見られたが、少しずつ慣れてきて意見の要約を構造的にできるようになってきた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①DP,カリキュラムマップにおける本科目の位置づけ

本科目は教職課程の科目であり、ほとどの大学にでも共通するカリキュラムマップにそっており、内容的な妥当性は問題ないとする。

②DPについて

教職課程独自のDPがないために、評価項目が授業のねらいと必ずしも整合的でない。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①学生の自由記述にほとんど記述がない。授業の感想は毎時間書かせているのでそこで授業の反応はわかるが、後期全体の感想がほとんどないというのは、一考の余地があるだろう。

②授業中の感想の中に理不尽ともいえる要求があり、対応に苦慮している。そうした要求について、どう学生と問題意識を共有すべきか工夫してみたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

①教育課程論という学科の専門科目と全く異なる分野の学修への動機は、教職希望ということをお案してもなかなか高めがたい。アクティブラーニングをできるだけ導入して、学生の主体性に期待する授業構成を目指しているのであるが、学生自身にこれまでしみついた受動的な姿勢からの転換が難しい。少しずつでも、受動的な姿勢から能動的な姿勢へ転換できるように、工夫していきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
学校保健教育法	3	前期（後期）	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、養護教諭一種免許状資格取得希望学生にとっては必修科目である。学生が学校という場における保健教育について知識理解を深め、教職課程の実習で保健教育を実践できる力を養うことが重要になる。授業づくりに関する基礎的な学習を履修後に実施するのが望ましいが、3年後期看護学科実習のためにこの時期に履修することになる。そのため、既習事項を確認しながら実施する。また、実習で授業を実践するために、講義だけでなく演習の機会を多く取り入れている。</p> <p>学生の受講動機の項目「資格取得に必要である」が100%、次いで「関心のある内容である」83.3%という認識で学生は受講している。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
		やや達成された	やや達成された	達成された		達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は77.6（±11.65）であり、「秀」「優」レベルが42.3%であった。DP目標別達成度をみると、「知識・理解」57.6%、「思考・判断」89.5%、「態度」81.3%であった。</p> <p>学生の「到達度自己評価」に関する項目の平均値は4.0～4.8であった。</p> <p>学生の「成績到達度」の理想的レベル（概ね80%以上とする）とすれば全体的な成績としては概ね到達している。</p> <p>学生による「授業の質評価」に関する項目の平均値は4.5～5.0であった。</p> <p>成績のDP項目別到達度からみると「知識・理解」が達成されていない状況がみられる。しかし、学生の全体的な成績及び授業後の「到達度自己評価」、学生による「授業の質評価」結果が概ね良好であった点から、概ね教育目標に到達したと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

① CP, カリキュラムマップからの位置づけからみでの内容的妥当性

本科目は、教職課程の養護教諭一種免許状取得のための必修科目である。既習内容については、学生に授業内で確認しながら進めている。目標到達度や成績から、内容的には概ね妥当であると考ええる。

② DP, 行動目標からのみでの内容的妥当性

成績評価到達度は、学生の全体の成績および「思考判断」「技能表現」の達成度は概ね達成し、学生の「到達度自己評価」からみると内容的には妥当であったと考ええる。

③ まとめ

以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生による「授業の質評価」に関する項目の平均値は4.5～5.0であった。

学生の「情報の利用」として、シラバスを参考にした学生は67%、受講計画については33%が立案していた。

「学習量の評価」については、予習・復習を「6回以上」取り組んだ学生が83%いた。また、学生は模擬授業に向けて指導案作成について、時間外でも相談したりするなど積極的な姿勢がみられた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

養護教諭免許取得に関する必修科目の位置づけである。学生全体の成績はDP別の「知識・理解」の到達度が低く、全体の成績が76%にとどまった。今後、基礎的な「知識・理解」について理解を深めるよう、授業におけるワークシートなどを工夫していきたい。

しかし、学生の「到達度自己評価」に関する項目の平均値は4.0～4.8であった。学生による「授業の質評価」に関する項目の平均値は4.5～5.0であった。このように、学生の授業に関する評価からみると、授業の内容は概ね妥当だったと考える。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護実習事前事後指導	3~4	三期	選択		7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、教職における実習前後に実施する科目であり、教職の免許状取得のためには必修科目である。教職の実習は初めて経験する学生に対して、実習前の準備と実習後の振り返りを中心に構成している。そのため、授業内容には、実習に必要な実践的な演習を多く取り入れている。また、外部講師として現職の教諭などを招き、受講者の実習への意欲を高めるような授業構成にしている。さらに、実習発表会に次年度実習予定の3年生に参加を促し、4年生の振り返りの意欲を高めたり充実させたりするよう取り組んでいる。</p> <p>学生の受講動機としては「資格取得に必要である」が80.0%と最も高かった。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>学生の成績の到達度は、78.9% (±6.6) で、理想的レベル（概ね80点以上とする）の成績に達したものが60%いた。DP目標別達成度から成績をみると「知識・理解」76.8%、「思考・判断」78.9%、「態度」80.2%という結果であった。「知識・理解」と「思考・判断」が、理想的レベルにやや達成していない。</p> <p>学生自身の学習「到達度の自己評価」は、3.0～3.6という評価であった。成績及び学生の自己評価からみて、概ね教育目標は達成されたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①カリキュラムマップの位置づけからみでの内容的妥当性
本科目は教職の実習前後に位置づけられた必修科目である。実習を前後に実施されるという点から、カリキュラムマップの位置づけからみでの内容的には妥当であると考えます。

②DP、行動目標からみでの内容的妥当性
成績評価からみると、内容的には概ね妥当であったと考えます。

③まとめ
以上のことから内容的妥当性には概ね問題ないと考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の「授業の質の評価」は、全項目の平均値が3.4～3.6であった。
学生の「学習量の評価」からみると、学生は、実習に向けての準備や復習に2回以上取り組んでいる。
学生の「情報利用」について、「シラバス」を全員が参考にし、60%の学生が計画を立てて講義に参加していた。
「図書・インターネット」は学生全員が利用し、「データベース」は40%の学生が利用していた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目は、教職における実習前後の科目である。この科目の成績到達度や学生自身の「到達度評価」、「授業の質の評価」などからみて概ね達成できたと考える。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	看護学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育におけるICT活用	1	後期	選択	はい	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>教育におけるICT活用は、本年度からの新規開講科目であり、全学の教職課程1年次生全員が履修する科目である。授業は複数の担当者がオムニバス形式で授業を行い、またICTの利活用に関する外部講師を招いて授業を実施した。</p> <p>学生が教育現場における情報通信技術の活用方法やその歴史的経緯、現状、今後の方向性等について理解を深めることができるよう指導を行った。</p> <p>教育におけるICT活用方法の他、学習評価や公務におけるICT活用、教育データの活用などを取り上げた。教育におけるICTの活用について理解を深める科目であることから、本授業内においても課題の提出や意見発表、意見共有を積極的にICTを活用して行うよう授業を工夫した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された			達成された	達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケート調査の結果から、授業の質評価については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は5.0満点中4.5、「期間内に行べき学習の範囲や課題は明らかであった」は4.5、「説明は理解しやすいものであった」は4.1、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は3.8、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.3と概ね良好であった。講義が中心となる授業形態であったため、今後は学生が話し合ったり、意見を発表し合う機会を多く設けるよう工夫したい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業評価アンケート調査の結果から、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は5.0満点中4.3、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」は3.9、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」は4.0、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.0、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は4.1と概ね良好であった。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、教職課程の学生たちのICT活用力の向上に尽力する。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

達成状況については概ね良好であった。今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、教職を目指す学生たちの指導に力を尽くしたい。